

第 1 版

足立区立小・中学校の 適正規模・適正配置実施計画

－ 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（案）－

令和 8 年 1 月

足立区教育委員会

～足立区立小・中学校の適正規模・適正配置事業について～

適正規模・適正配置実施計画は、足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方に基づき、学校規模や児童・生徒数の変動、施設の老朽化などのほか、その学校を含むエリア内の学区域や町会・自治会の区域なども踏まえて、改善方法や事業の実施時期などを明確にするものです。

現在と未来の子どもたちにより良い教育環境を提供するため、本計画に基づき、適正規模・適正配置の取り組みを着実に進めてまいります。

「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置ガイドライン（令和7年10月策定）」より以下抜粋

足立区の適正規模の基準【学級数】

	小学校	中学校
学級数	1校あたり12～24学級 1学年あたり2～4学級	1校あたり12～24学級 1学年あたり4～8学級

〔文部科学省と足立区の適正規模基準の比較〕

	国の根拠法令など	国	区（小・中学校）
小規模校	—	11学級以下	
適正規模	学校教育法施行規則	12～18学級	12～24学級
	義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令	12～24学級 (5学級以下の学校と12～18学級の学校を統合した場合)	
大規模校	文部科学省の手引き	25～30学級	25学級以上
過大規模校		31学級以上	大規模校と同様の扱い

※ 令和7年4月現在、区では「東京都公立小・中学校の学級編成基準」に基づき、小学校は全学年で、中学校では1年生のみ35人学級の編制となっています。国や都では、令和8年度以降、中学校でも段階的に全学年35人学級を実現していく方針のため、今回の実施計画（案）では小学校・中学校ともに、原則1学級あたり35人として算出しています。

足立区の適正配置の基準【通学時間及び通学距離】

	小学校	中学校
通学時間	おおむね30分以内	
通学距離	おおむね1,200m以内が望ましい	おおむね1,800m以内が望ましい

※ 望ましい通学距離は自宅から学校までの直線距離で設定

通学時間や通学距離の考え方

通学時間

通学時間は、一般的に子どもが通学に要する時間を、目安として基準にしています。
厚生労働省による子どもの起床時間の調査や、足立区の学校の登校時間などを勘案し、
通学時間として「おおむね30分以内」を一つの目安としています。

通学距離

通学時間「おおむね30分以内」より通学距離の目安を算出

小学生は「分速40mとして、30分歩くとおおむね1,200m進む」

中学生は「分速60mとして、30分歩くとおおむね1,800m進む」

※ 通学距離の基準は、自宅から学校までの直線距離で測って設定しています。

◇◆◇ 目 次 ◇◆◇

第1章 児童・生徒数の推移と学校施設の更新

- 1 区内総人口と児童・生徒数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ
- 2 学校数及び建築年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ

第2章 花畑地区の中学校の現状と課題

- 1 中学校の配置図（花畑地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 ページ
- 2 花畑北中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 ページ
 - （1）これまでの在籍生徒数の推移
 - （2）学区域内の年少人口及び入学先傾向
- 3 花畑中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 ページ
 - （1）これまでの在籍生徒数の推移
 - （2）学区域内の年少人口及び入学先傾向
- 4 学校施設の更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ページ

第3章 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（中学校）

- 1 適正規模・適正配置の具体的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 ページ
 - （1）「花畑北中学校」と「花畑中学校」を統合します
 - （2）統合後の学校の配置を検討します
 - ア 適正配置の視点
 - イ 敷地面積の視点
 - ウ 施設更新の視点
 - （3）改築期間中の仮校舎を検討します

第4章 花畑地区の小学校の現状と課題

- 1 小学校の配置図（花畑地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 ページ
- 2 花畑西小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11 ページ
 - （1）これまでの在籍児童数の推移
 - （2）学区域内の年少人口及び入学先傾向
- 3 桜花小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 ページ
 - （1）これまでの在籍児童数の推移
 - （2）学区域内の年少人口及び入学先傾向
- 4 花畑第一小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13 ページ
 - （1）これまでの在籍児童数の推移
 - （2）学区域内の年少人口及び入学先傾向

5	花畑西小学校の適正規模化に向けた検討	15
	(1) 学区域変更	
	(2) 学校統合	16
	ア 花畑西小学校と桜花小学校を統合する場合	17
	イ 花畑西小学校と花畑第一小学校を統合する場合	19
	ウ 全3校を統合する場合(花畑西小学校・桜花小学校・花畑第一小学校)	21
6	学校施設の更新	22

第5章 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画(小学校)

1	適正規模・適正配置の具体的な方法	23
	(1) 「花畑西小学校」と「桜花小学校」を統合します	
	(2) 統合後の学校の配置を検討します	
	ア 適正配置の視点	
	イ 敷地面積の視点	
	ウ 施設更新の視点	
	(3) 改築期間中の仮校舎を検討します	

第6章 学校統合に向けた今後の進め方

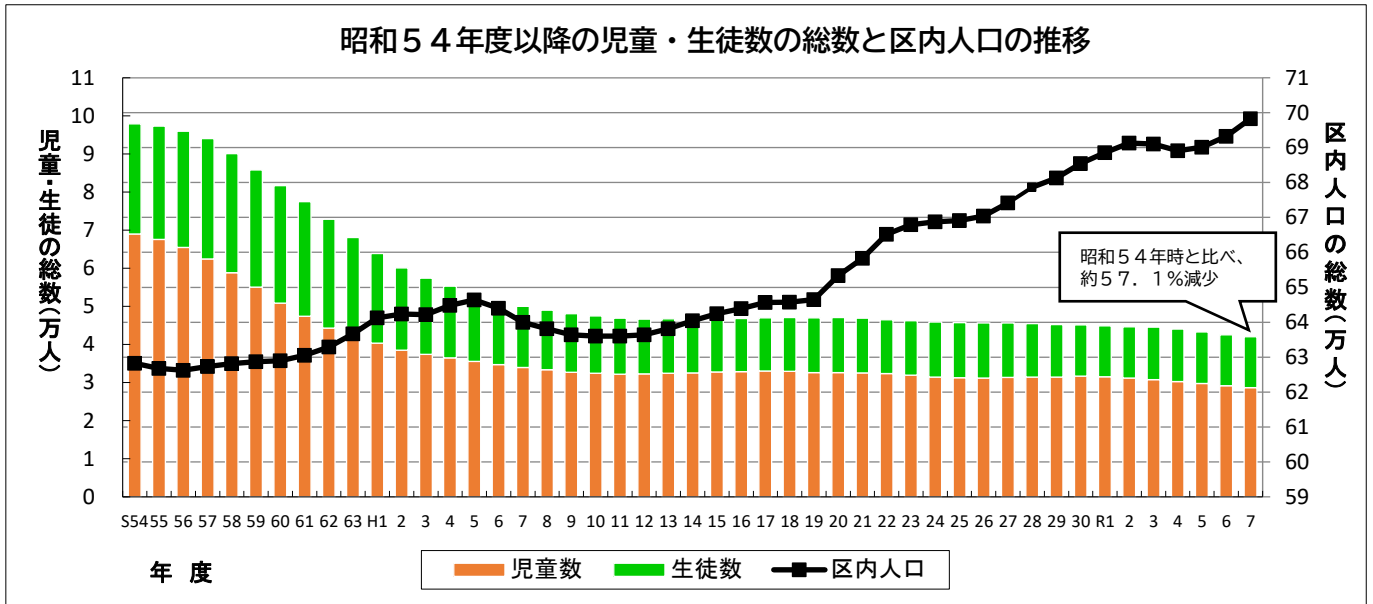
1	統合地域協議会の設置	26
2	統合及び校舎建設等のスケジュール(予定)	27
	(1) 中学校	
	(2) 小学校	
3	請願を踏まえた検討	28

※ 花畑地区とは、花畑一丁目から八丁目、南花畑一丁目から五丁目、及びその近隣(保木間五丁目、東保木間一・二丁目、六町四丁目)の地域としています。

第1章 児童・生徒数の推移と学校施設の更新

1 区内総人口と児童・生徒数の推移

区内総人口はゆるやかな増加傾向にあり、令和7年1月現在698,276人となっています。一方で、区立小・中学校（以下「小・中学校」という。）の児童・生徒数は、昭和54年度の97,869人をピークにその後は減少に転じ、令和7年5月現在で、42,013人と昭和54年時と比較して約57.1%減少しています。



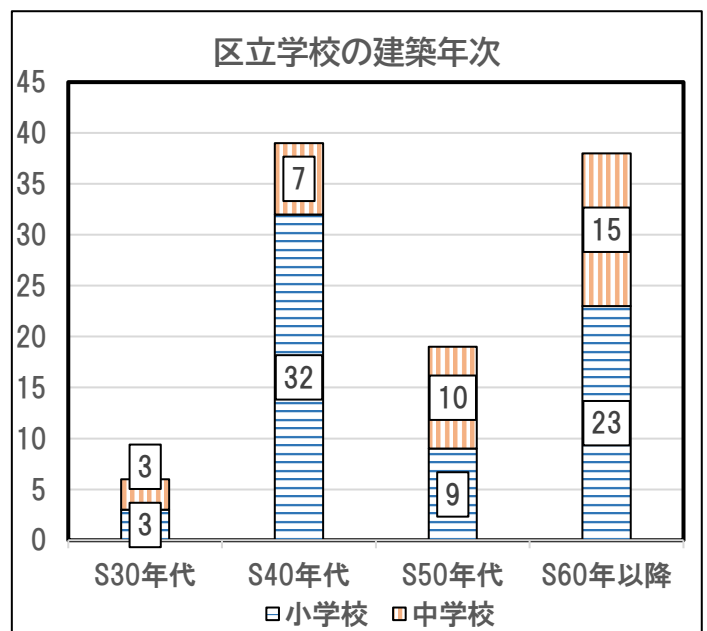
※ 区内総人口は各年1月1日付（外国人を含む）、児童・生徒数は各年5月1日付データ。

2 学校数及び建築年次

足立区では、昭和30年代から昭和40年代に多くの小・中学校を建設し、昭和62年度には小・中学校合わせて最多の119校（小学校80校、中学校39校）を有していました。

その後は学校の統合により、令和7年4月1日現在、小学校67校、中学校35校の102校となっています。

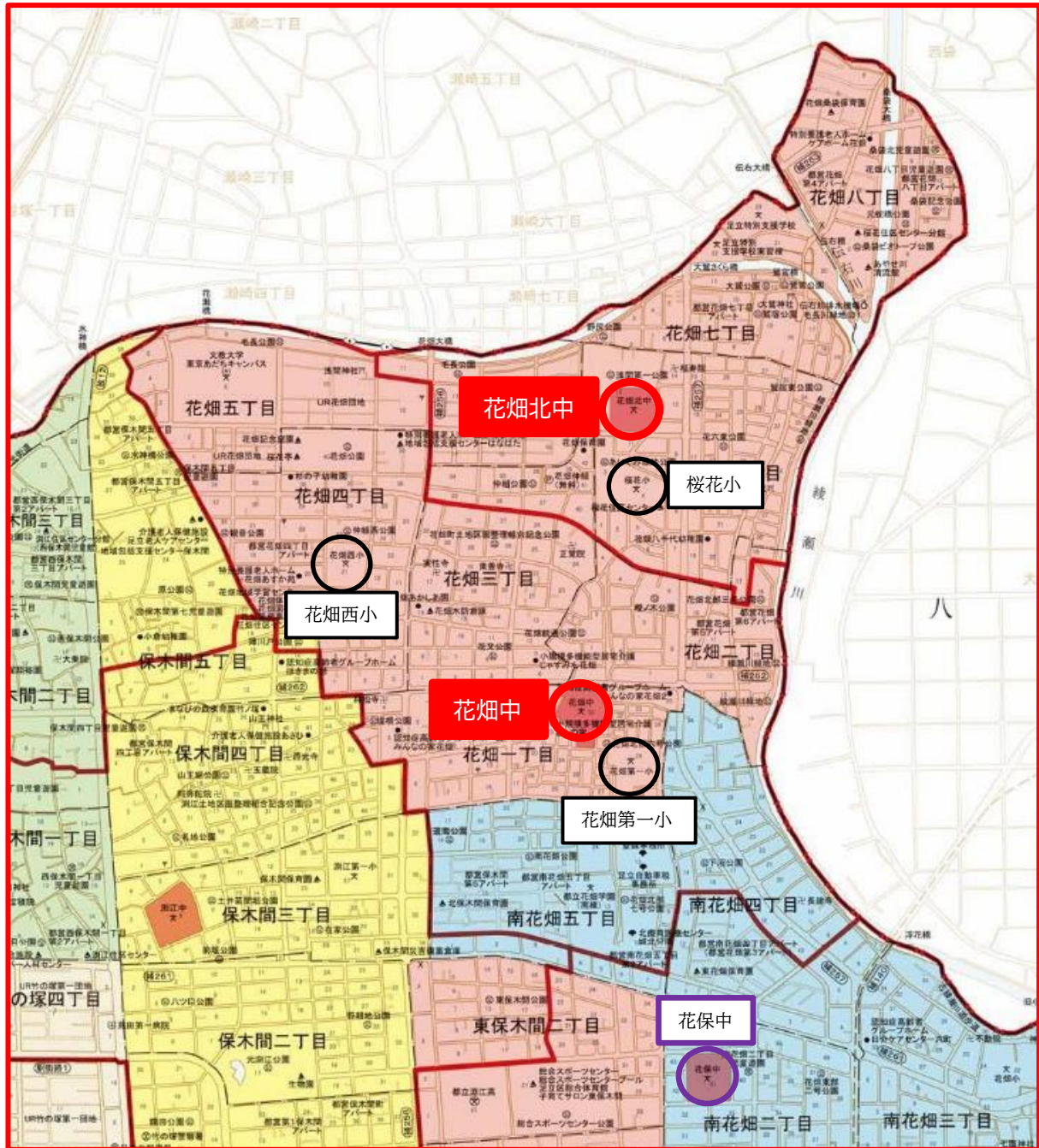
児童・生徒の教育環境を向上させるため、引き続き保全工事による長寿命化や施設更新を計画的に行う必要があります。



※ 大規模改修済み校・改築予定校については、「S60年以降」に含めています。

第2章 花畑地区の中学校の現状と課題

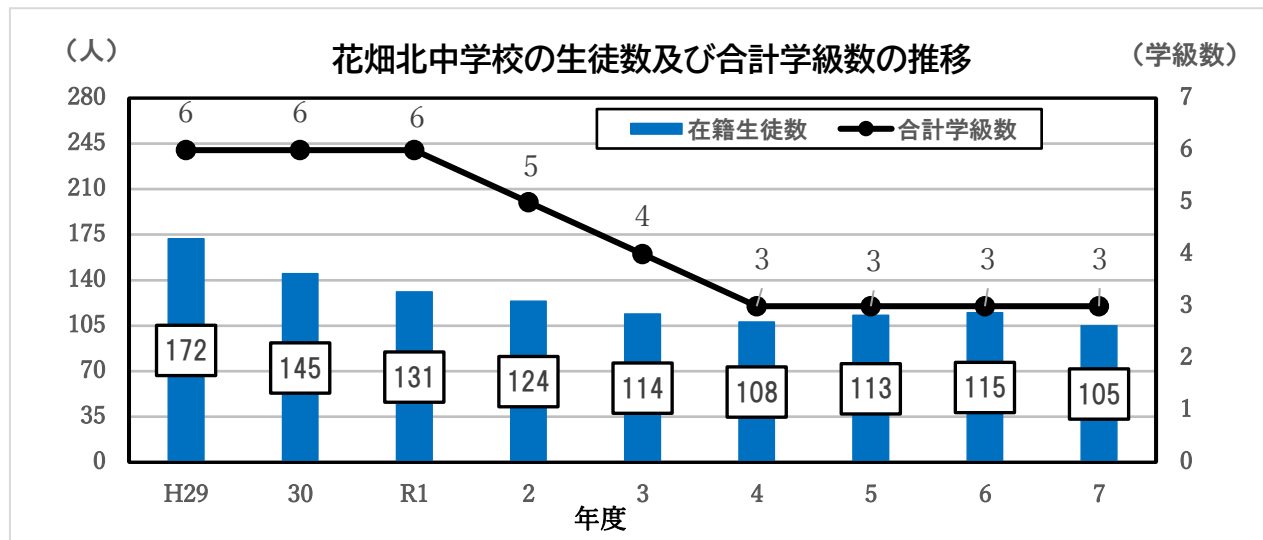
1 中学校の配置図（花畑地区）



2 花畑北中学校の状況

(1) これまでの在籍生徒数の推移

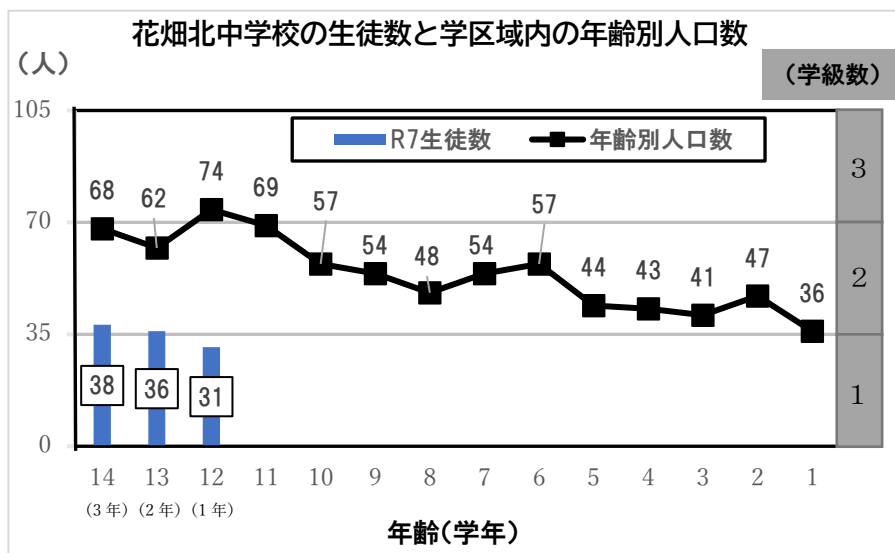
平成29年度から令和7年度までの9年間で、生徒数は172人から105人へ約39%減少し、令和4年度以降は合計学級数（年度ごとに1～3年生の学級数を合計した数）が3学級となり、小規模状態が続いています。



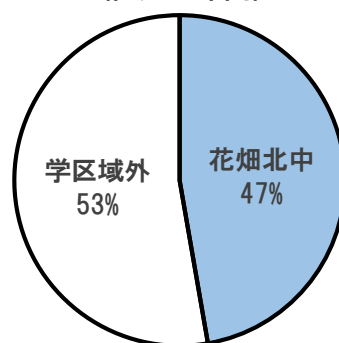
(2) 学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花畑北中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の47%にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の1歳から11歳までの年少人口の全員が仮に花畑北中学校に就学し、1学年35人学級と算定したとしても、各年齢で1学年あたり2学級となる見込みで、今後も小規模状態が続くと予測しています。



学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)



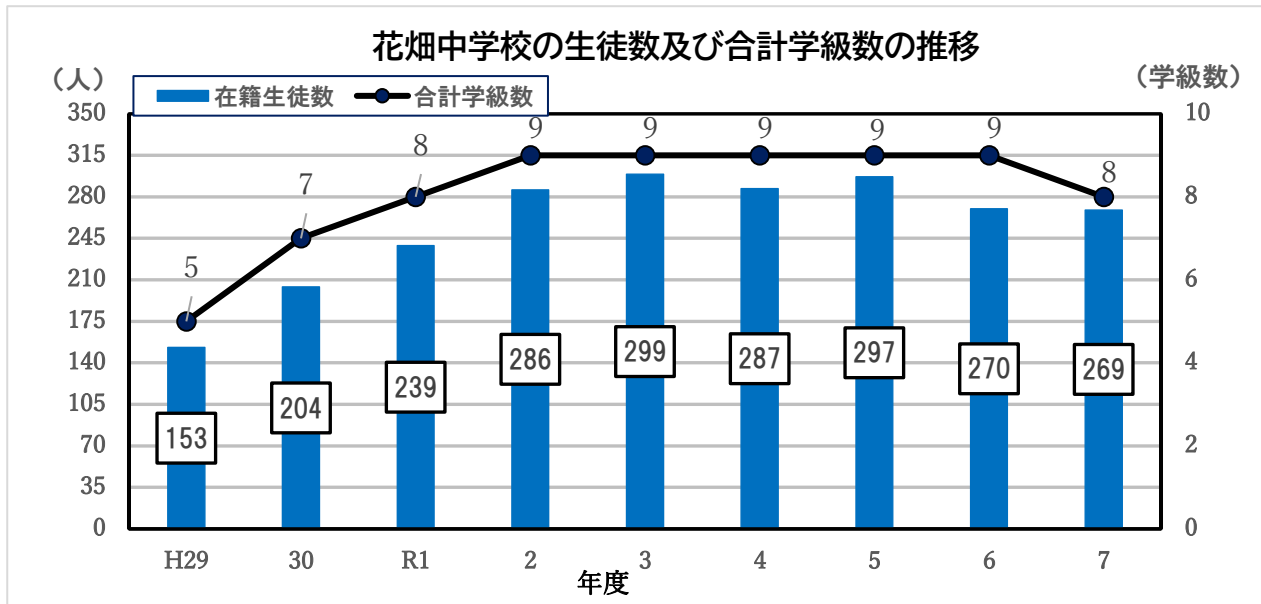
■花畑北中 □学区域外

※ 令和7年5月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

3 花畑中学校の状況

(1) これまでの在籍生徒数の推移

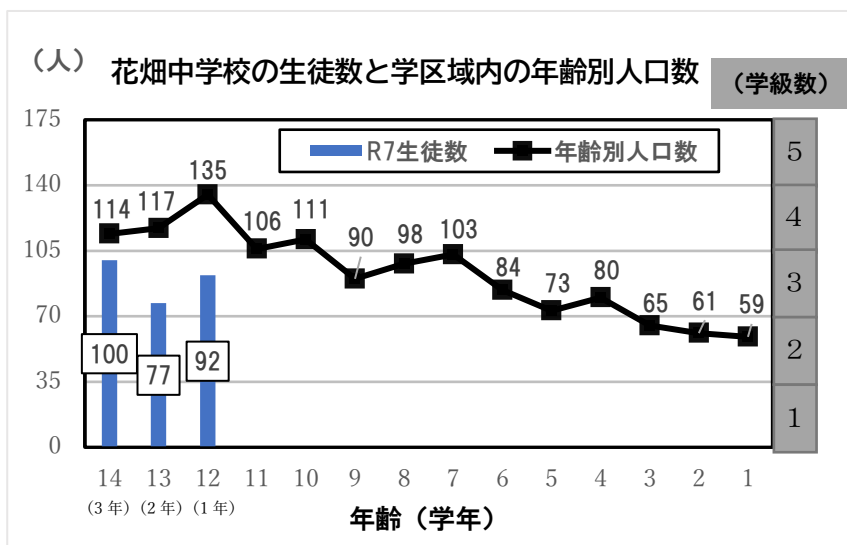
生徒数は、平成29年度の153人から増加し、令和3年度の299人をピークにその後は減少傾向となっています。また、合計学級数（年度ごとに1～3年生の学級数を合計した数）は9学級を超えず、小規模状態が続いています。



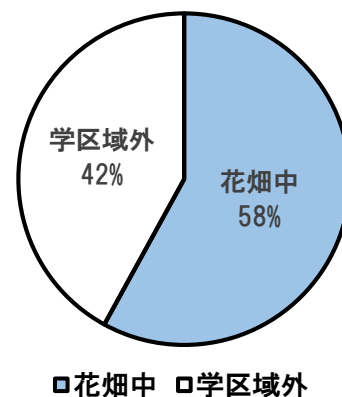
(2) 学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花畑中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の58%にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の1歳から11歳までの年少人口の全員が仮に花畑中学校に就学し、1学年35人学級と算定したとしても、9歳以下では1学年あたり3学級以下となる見込みで、小規模傾向になると予測しています。



学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)



※ 令和7年5月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

4 学校施設の更新

花畑中学校の校舎は昭和38年建設で、築後60年を経過しています。

大規模改修済みの学校を除くと、区内中学校では瀏江中学校の次に古い校舎となるため、すみやかに施設更新を進める必要があります。

◆昭和30年代に建築された中学校◆

番号	学校名	建築年	大規模改修等の実施状況
1	東島根中学校	昭和34年	平成25年度 大規模改修済み
2	第十二中学校	昭和35年	平成25年度 大規模改修済み
3	第九中学校	昭和36年	平成22年度 大規模改修済み
4	第四中学校	昭和36年	平成21年度 大規模改修済み
5	第十中学校	昭和37年	平成25年度 大規模改修済み
6	瀏江中学校	昭和37年	
7	花畑中学校	昭和38年	
8	第七中学校	昭和39年	平成22年度 大規模改修済み
9	第十四中学校	昭和39年	

◇大規模改修とは◇

壁、床、天井を入れ替え、エレベーターを設置した改修。

第3章 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（中学校）

1 適正規模・適正配置の具体的な方法

(1) 「花畑北中学校」と「花畑中学校」を統合します

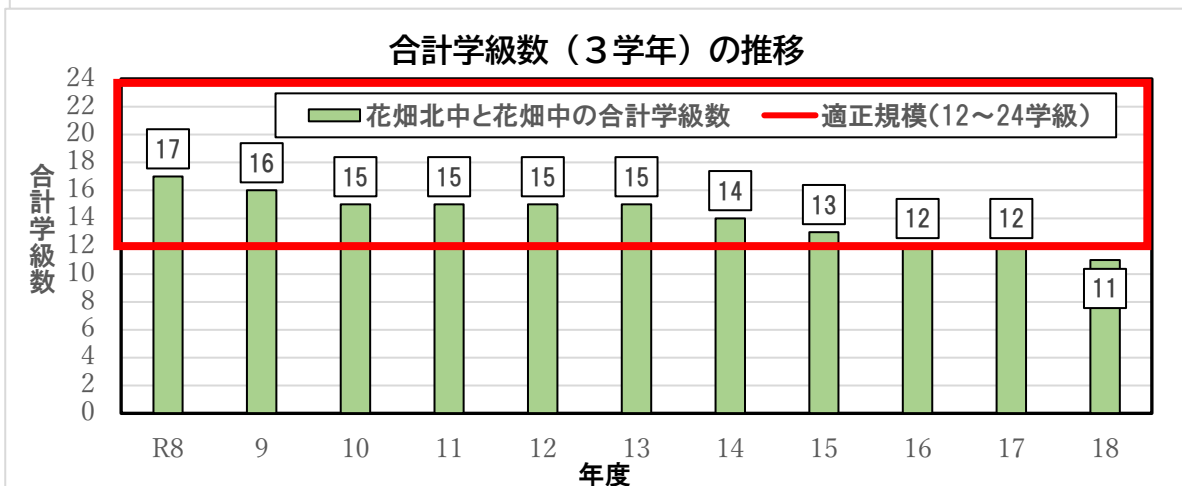
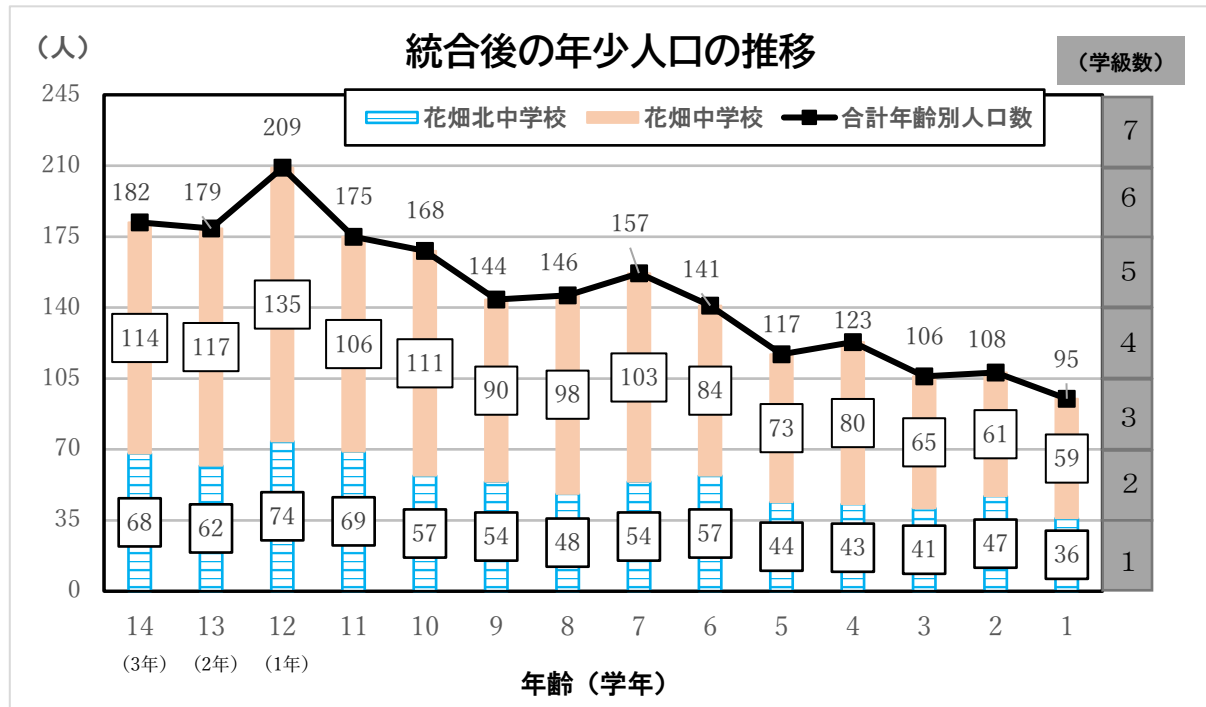
花畑北中学校と花畑中学校の学区域内の1歳から11歳までの年少人口の全員が仮に学区域内の中学校に就学し、1学年35人学級で算定した場合、統合後の3学年の合計学級数は11～17学級程度の規模で推移することが予測されます。

なお、令和18年度には統合後の合計学級数が適正規模を下回る11学級になる見込みですが、まずは現在すでに小規模な花畑北中学校と、令和10年度から小規模化が見込まれる花畑中学校を安定した学校規模にすることで、学校生活をより充実させ、教育環境の向上を目指します。

また将来を見据えて、引き続き学区域内の年少人口の推移を把握していくとともに、近隣の花保中学校の動向（次ページ参照）等についても注視していきます。

◇統合後の年少人口の推移◇

※ 令和7年5月時点の学区域内居住人数をもとに算出

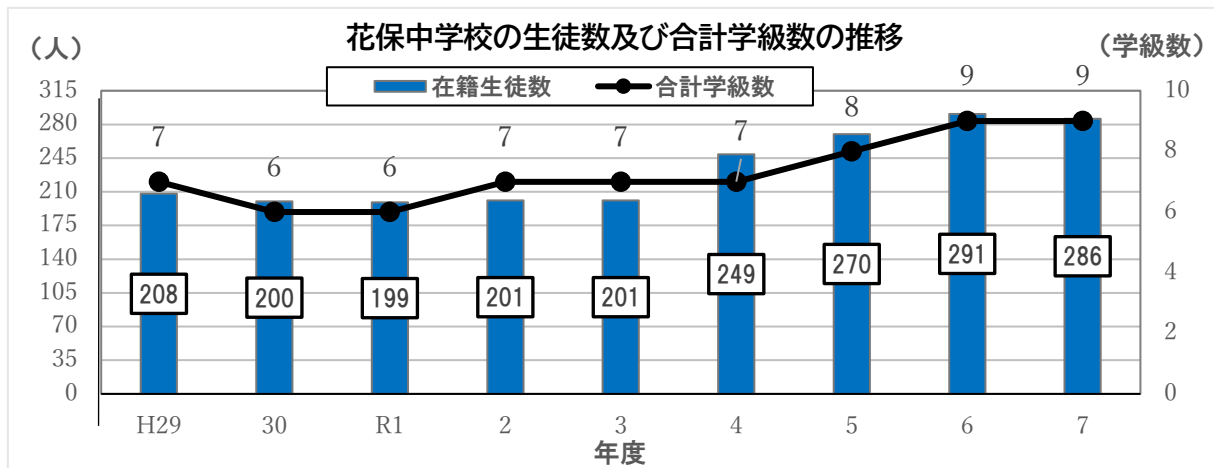


【参 考】

1 花保中学校の状況

(1) これまでの在籍生徒数の推移

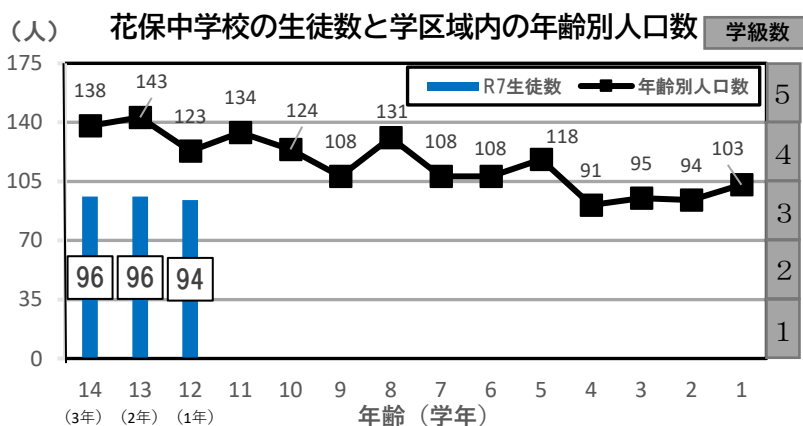
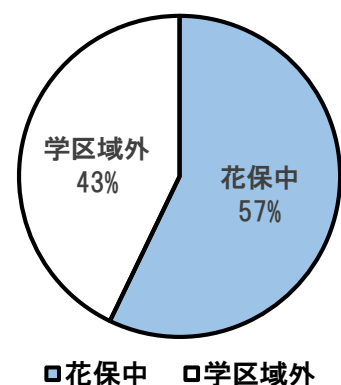
生徒数は、令和元年度の199人から増加し、令和6年度の291人をピークにその後は減少しています。また、合計学級数（年度ごとに1～3年生の学級数を合計した数）は9学級を超えず、小規模状態が続いています。



(2) 学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花保中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の57%にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の1歳から11歳までの年少人口の全員が仮に花保中学校に就学し、1学年35人学級で算定した場合、当面は適正規模を維持すると見込んでいますが、4歳以下では1学年あたり3学級となる見込みで、将来的には小規模傾向になると予測しています。

学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)

※ 令和7年5月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

(3) その他

- ア 花畑北中学校・花畑中学校と比べて、築年数が浅い（昭和54年築）
- イ 花畑北中学校・花畑中学校と、町会・自治会や青少年対策地区委員会の区域が異なる

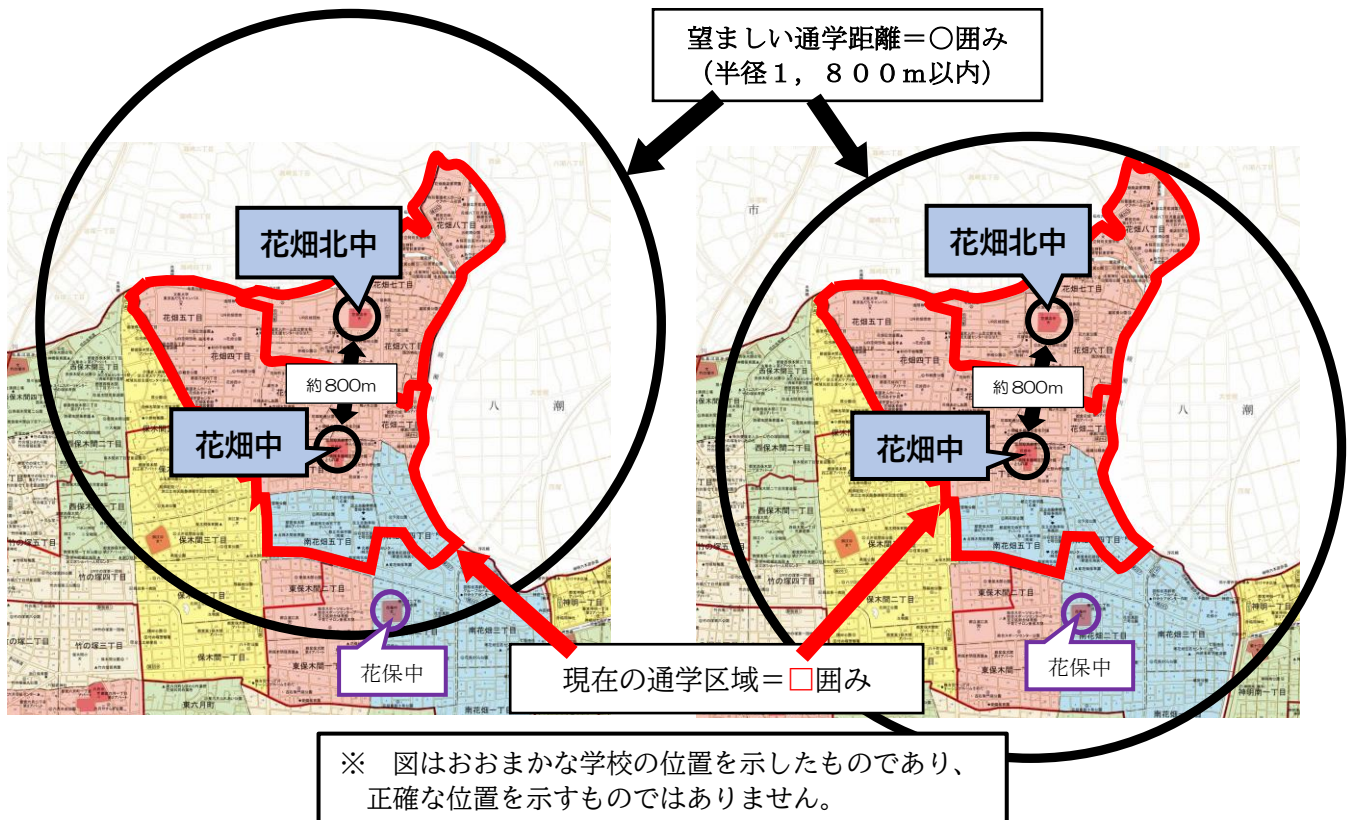
（２）統合後の学校の配置を検討します

ア 適正配置の視点

- （ア）望ましい通学時間は、おおむね30分以内
- （イ）望ましい通学距離は、直線距離でおおむね1,800m以内
- （ウ）歩行速度は分速60m
- （エ）各校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、下図のとおりです。
いずれの場合も望ましい通学距離の範囲内にとどまります。

①花畑北中学校の敷地を活用する場合

②花畑中学校の敷地を活用する場合



イ 敷地面積の視点

- （ア）花畑中学校は花畑北中学校と比べて、約900㎡広い

※ 約900㎡は学校プール3個分（1個あたり約300㎡）に相当する

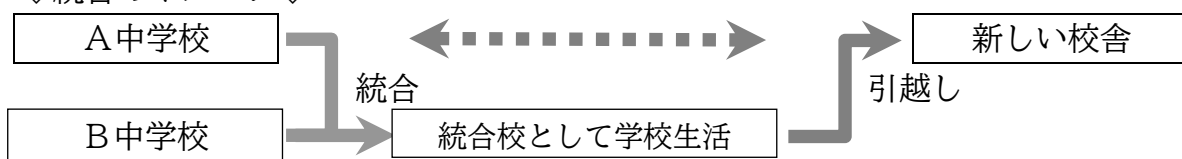
学校名	建築年	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
花畑北中学校	昭和53年	13,223	7,387
花畑中学校	昭和38年	14,122	6,769

ウ 施設更新の視点

- （ア）花畑中学校は花畑北中学校よりも築年数が15年古い

（3）改築期間中の仮校舎を検討します

◇統合のイメージ◇

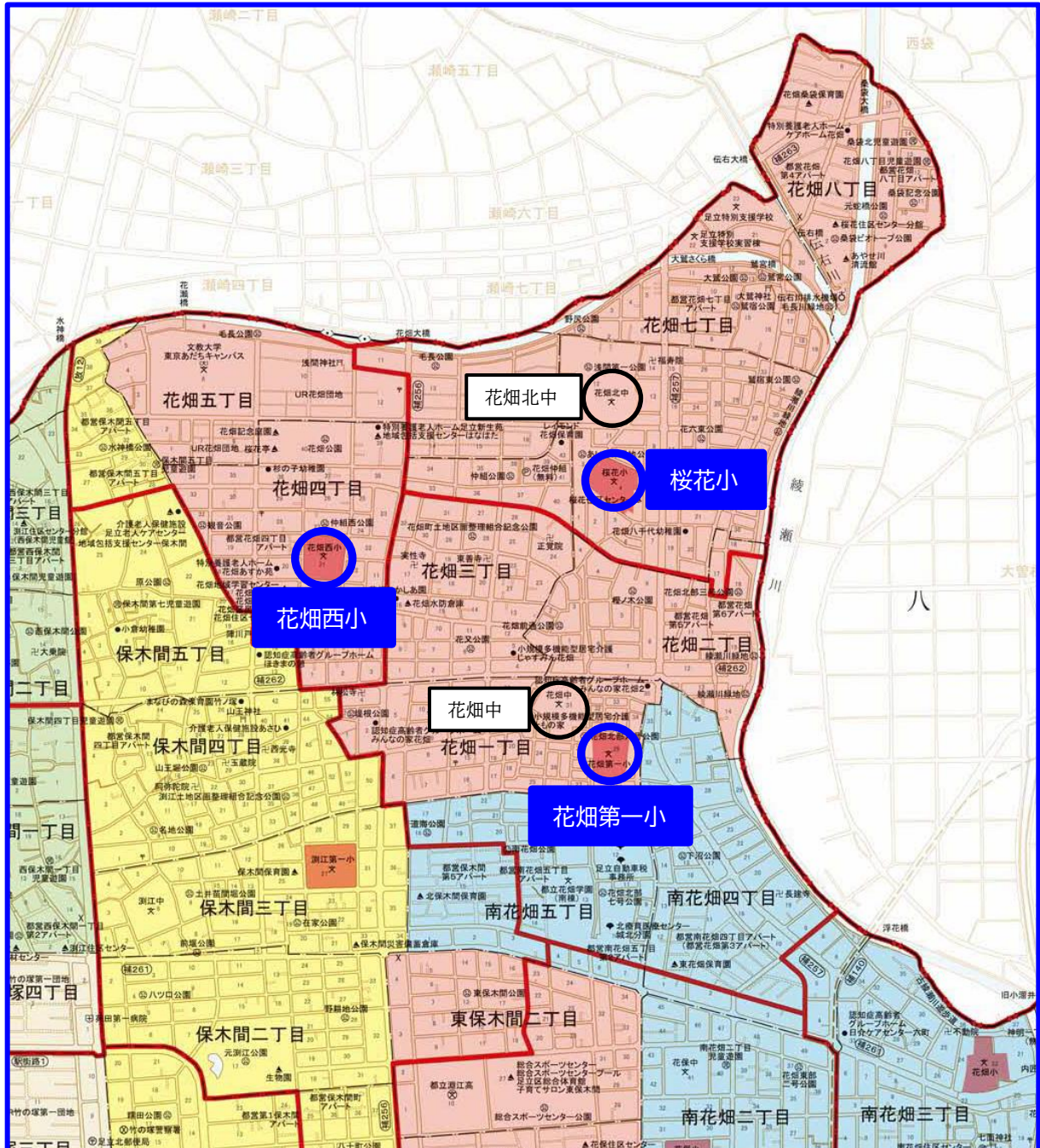


※ 「新しい校舎」へ引越し後、B中学校の校舎や校庭、体育館等については、近隣の小・中学校改築時の仮校舎等として活用することを検討します。

校舎の解体・改築工事における生徒や教員等に対する安全性の確保や、騒音・振動による学校運営への影響を総合的に判断し、A中学校の改築期間中は、B中学校を統合後の仮校舎として活用します。統合の際にB中学校の普通教室で不足が生じる場合は、必要に応じて教室の転用や増設などを行います。

第4章 花畑地区の小学校の現状と課題

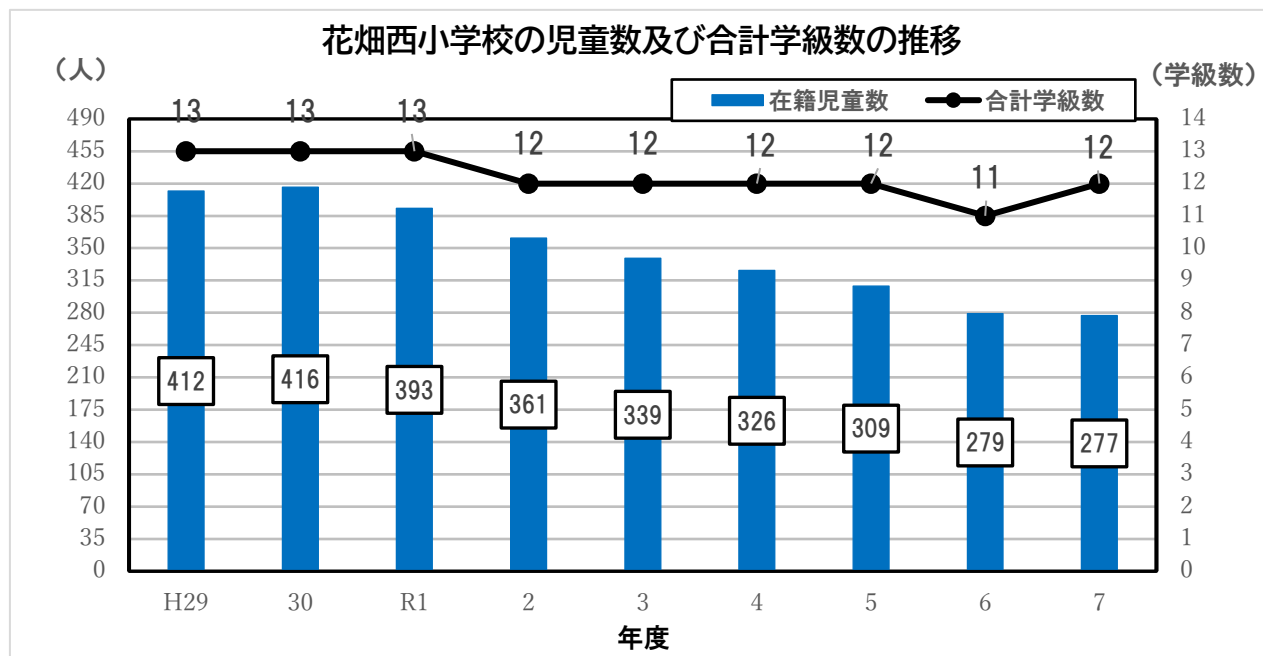
1 小学校の配置図（花畑地区）



2 花畑西小学校の状況

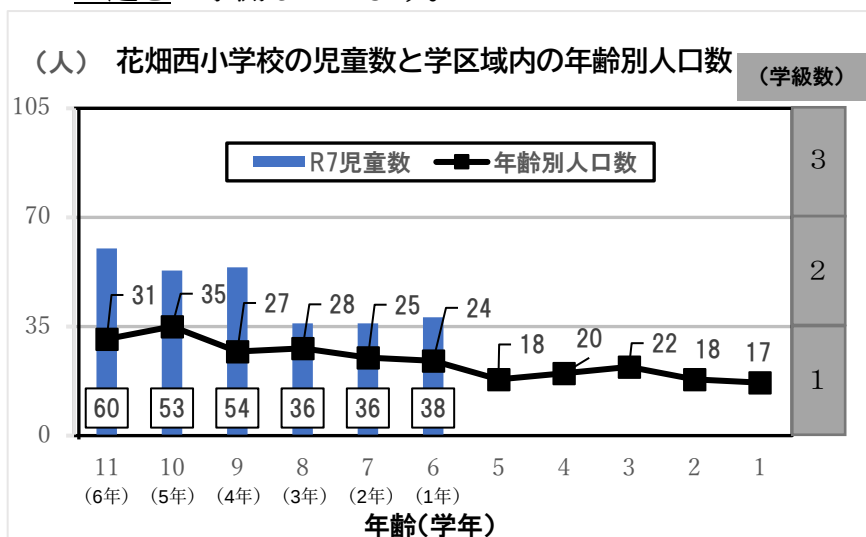
(1) これまでの在籍児童数の推移

平成29年度から令和7年度までの9年間で、児童数は412人から277人へ約33%減少し、児童数の減少に伴い、合計学級数（年度ごとに1～6年生の学級数を合計した数）も令和6年度には小規模である11学級になっています。

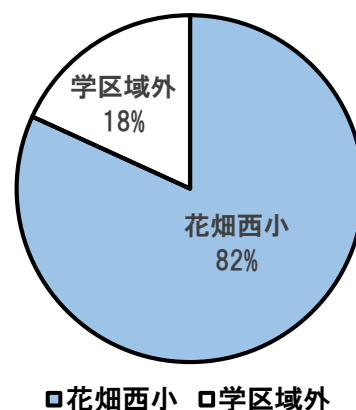


(2) 学区域内の年少人口及び入学先傾向

在籍児童数は学区域内の年齢別人口数を上回っています。また、学区域内の1歳から5歳までの年少人口の全員が仮に花畑西小学校に就学し、1学年35人学級と算定したとしても、各年齢で1学年あたり1学級が続く見込みで、今後さらに小規模化が進むと予測しています。



学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)

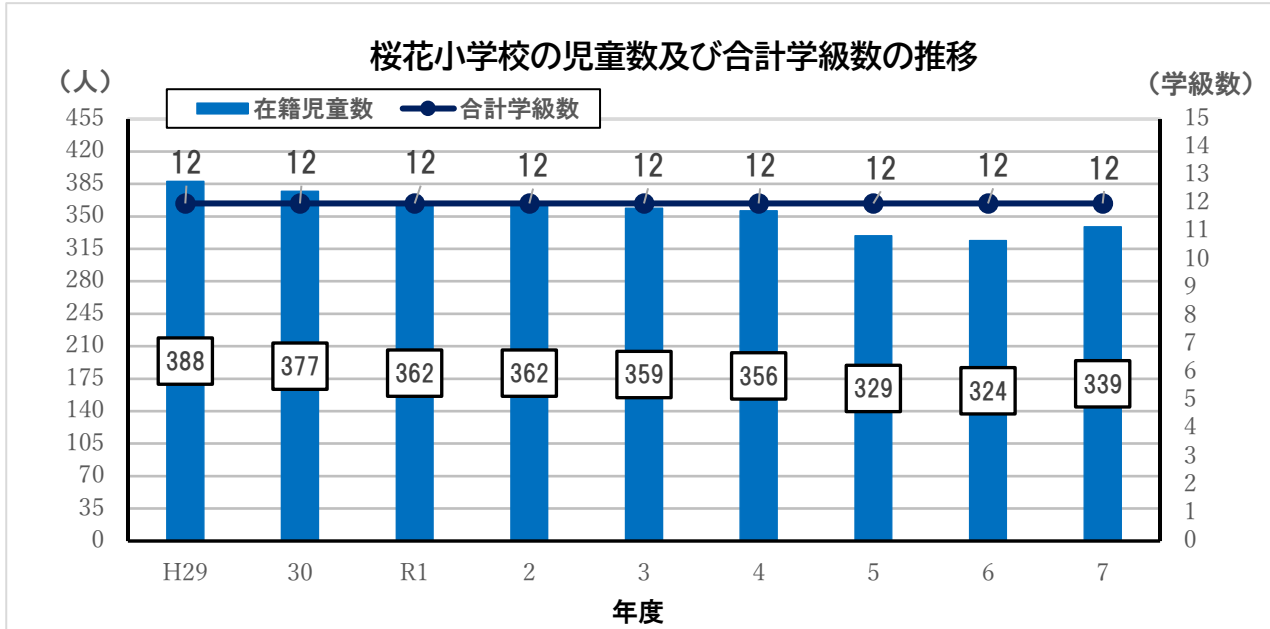


※ 令和7年5月時点の児童数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

3 桜花小学校の状況（平成9年4月、花畑東小学校と桑袋小学校の統合により開校）

（1）これまでの在籍児童数の推移

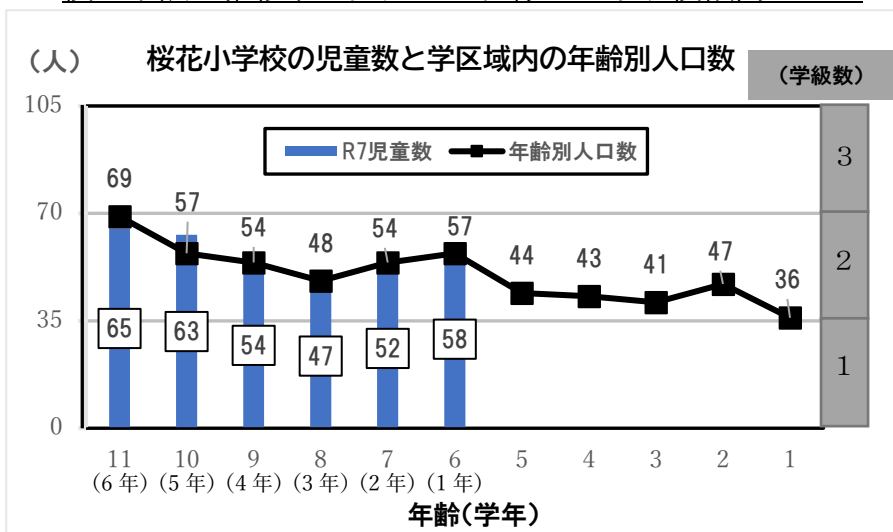
平成29年度から令和7年度までの9年間で、児童数は388人から339人へ、約13%減少しています。一方で、合計学級数（年度ごとに1～6年生の学級数を合計した数）は12学級以上を維持しており、適正規模（12～24学級）の状況が続いています。



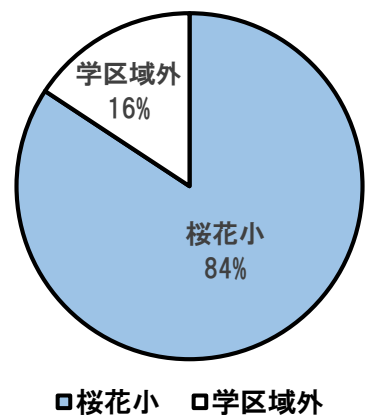
（2）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と在籍児童数はほぼ同数となっています。また、桜花小学校に通学している学区域内年少人口は、全体の84%を占めています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の1歳から5歳までの年少人口の全員が仮に桜花小学校に就学し、1学年35人学級と算定したとすると、各年齢で1学年あたり2学級となり、適正規模の下限を推移する見込みで、徐々に小規模傾向になると予測しています。



学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)

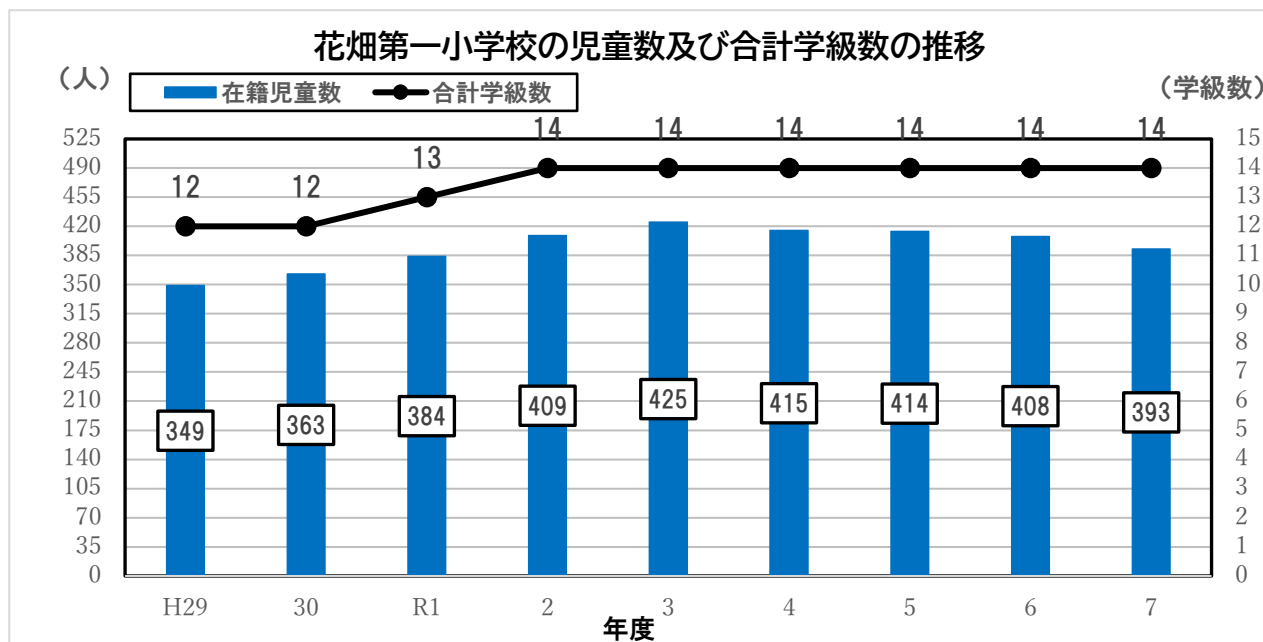


※ 令和7年5月時点の児童数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

4 花畑第一小学校の状況

(1) これまでの在籍児童数の推移

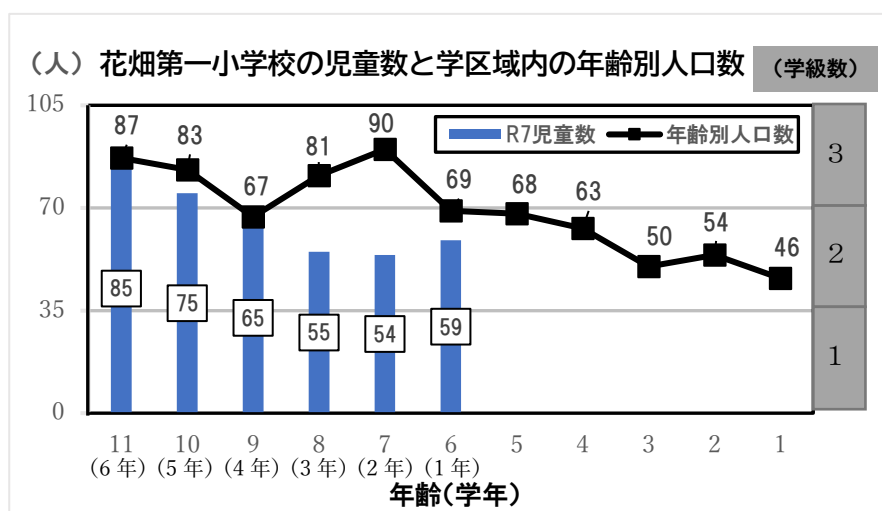
児童数は、平成29年度の349人から増加し、令和3年度の425人をピークにその後は減少傾向となっています。一方で、合計学級数（年度ごとに1～6年生の学級数を合計した数）は14学級を維持しており、適正規模（12～24学級）の状況が続いています。



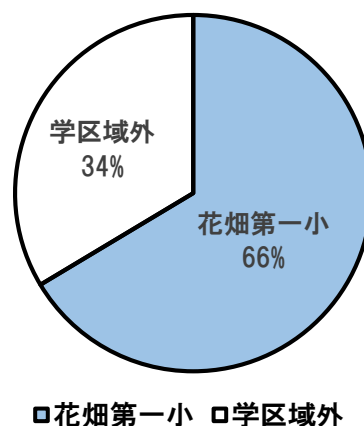
(2) 学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍児童数は全学年で少なくなっています。また、花畑第一小学校に通学している学区域内年少人口は、全体の66%にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の1歳から5歳までの年少人口の全員が仮に花畑第一小学校に就学し、1学年35人学級と算定すると、各年齢で1学年あたり2学級が続く見込みで、引き続き適正規模を推移すると予測しています。



学区域内年少人口の入学先
(直近3年間)



※ 令和7年5月時点の児童数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

ページ調整のため、
空白ページとする。

5 花畑西小学校の適正規模化に向けた検討

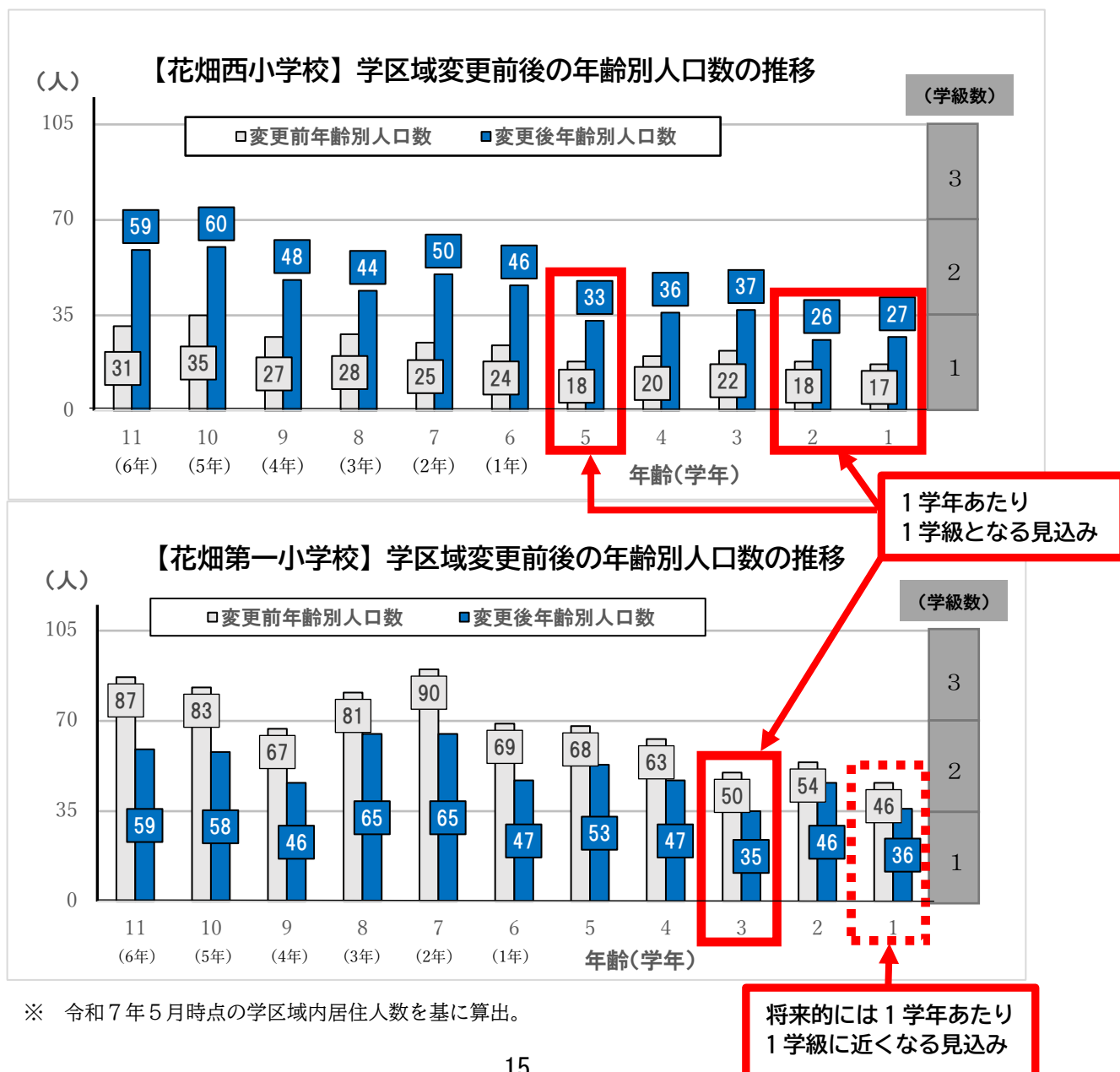
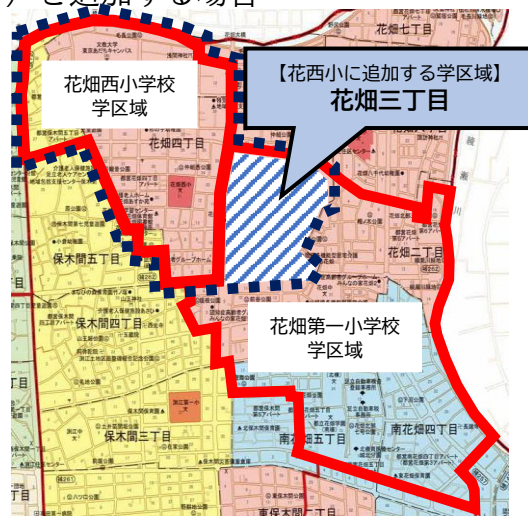
(1) 学区域変更

ア 花畑第一小学校の学区域の一部（花畑三丁目）を追加する場合

花畑西小学校では1学年あたり2学級の適正規模になる年齢もありますが、5歳と2歳以下では1学年あたり1学級となり、小規模化が進むと予測しています。

一方、学区域が狭まる花畑第一小学校でも、3歳で1学年あたり1学級となり、将来的には小規模傾向になると予測しています。

以上のことから、現時点では花畑西小学校及び周辺校の学区域変更は考えておりません。



(2) 学校統合

統合校組み合わせ別比較表

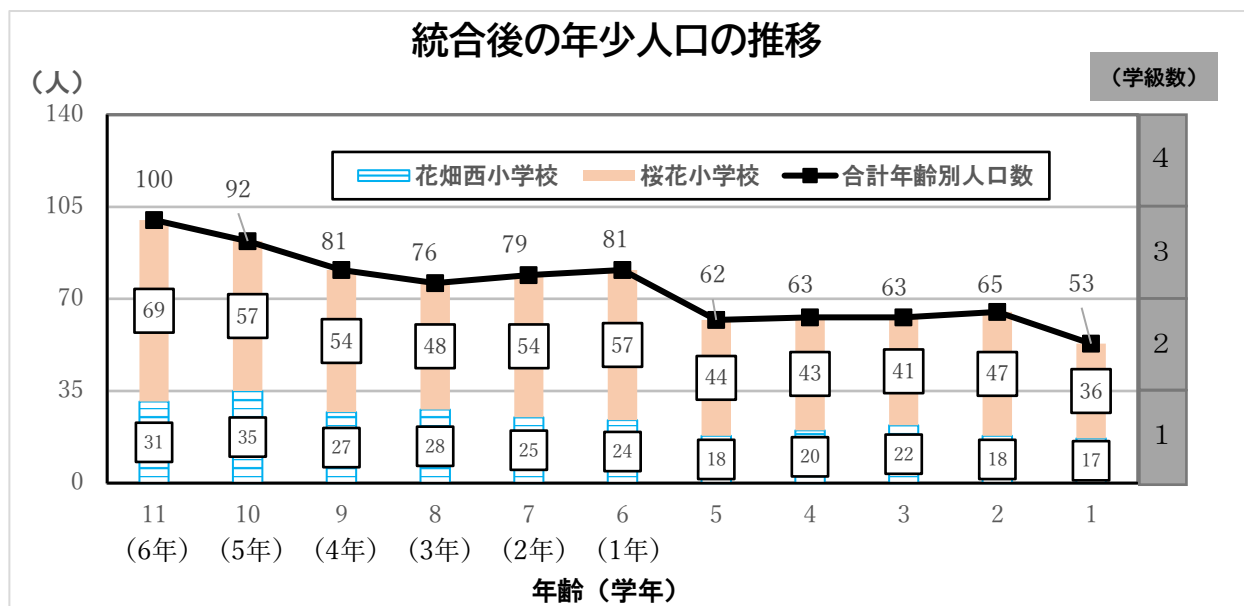
統合対象校 (敷地面積)	花畑西小学校 (10, 537㎡)			
説明ページ	17～18ページ		19～20ページ	
統合相手校 (敷地面積)	桜花小学校 (11, 826㎡)		花畑第一小学校 (10, 480㎡)	
統合後の 合計学級数 (令和8～12年度)	13～17学級		17～21学級	
	適正規模の範囲：12～24学級			
統合新校の 配置	桜花小学校	花畑西小学校	花畑第一小学校	花畑西小学校
最長通学距離 (直線距離)	約1, 450m	約1, 850m	約1, 750m	約1, 850m
望ましい通学 距離を超える 児童数 (令和12年度)	1学年あたり 9人程度	1学年あたり 11人程度	1学年あたり 11人程度	1学年あたり 10人程度

ア 花畑西小学校と桜花小学校を統合する場合

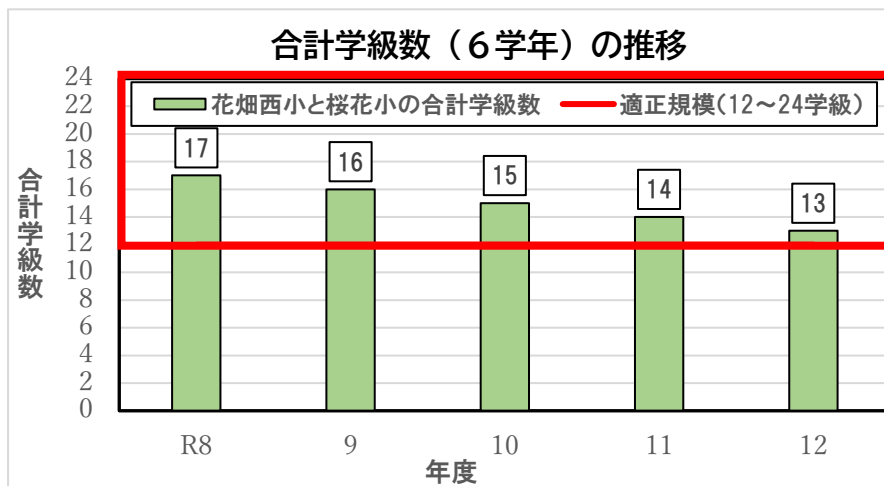
(ア) 適正規模の視点

花畑西小学校と桜花小学校の学区域内の1歳から5歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、1学年35人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は、13～17学級程度の適正規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校+桜花小学校】統合後の年少人口と合計学級数の推移



※ 令和7年5月時点の学区域内居住人数を基に算出。

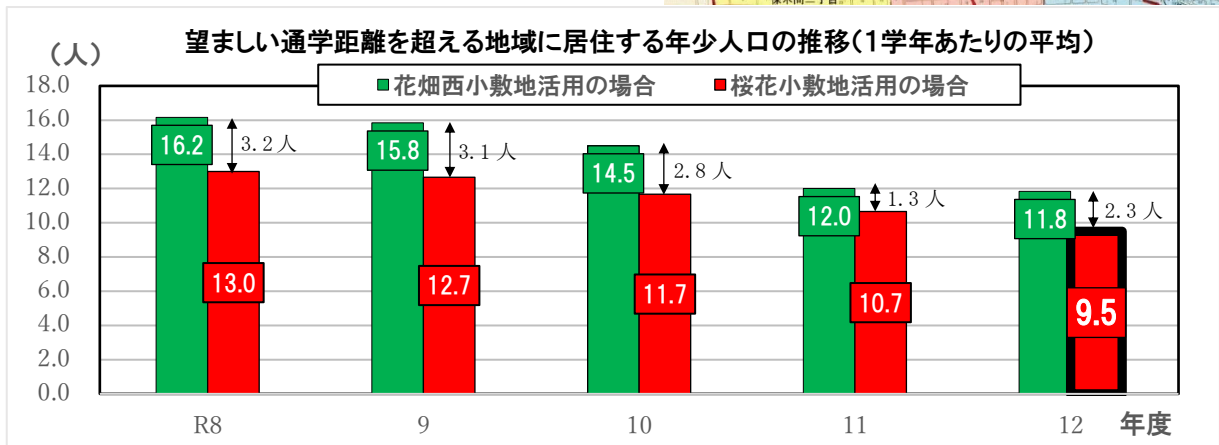
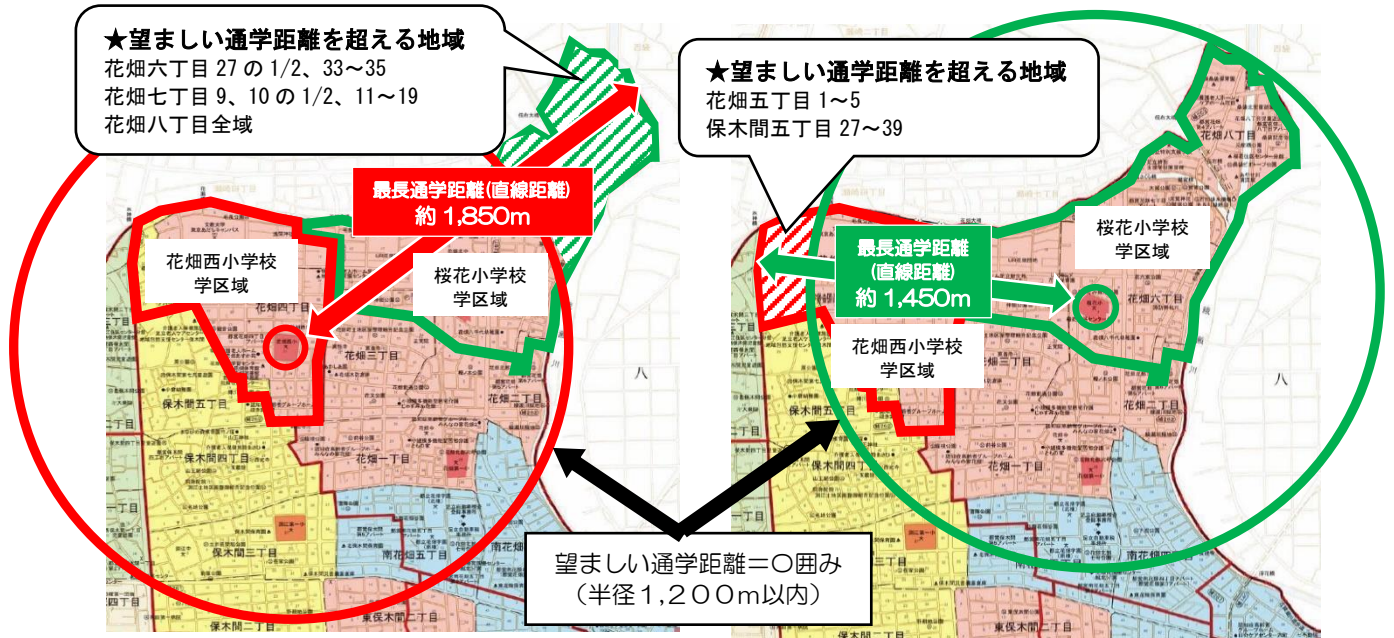


(イ) 適正配置の視点

桜花小学校の敷地を活用するほうが、最長通学距離（直線距離）は400m短い約1,450mになります。また、望ましい通学距離を超える地域に居住する年少人口（11歳以下）は、1学年あたり約2人少ない9人程度（令和12年度）となります。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合

②桜花小学校の敷地を活用する場合



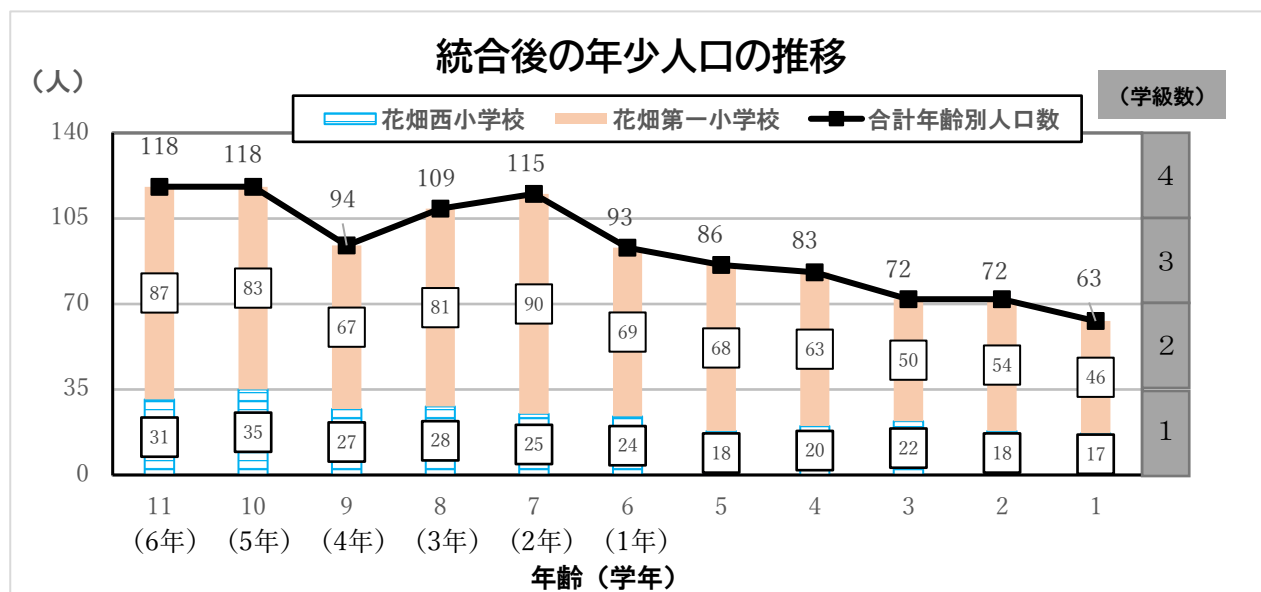
	花畑西小学校の敷地を活用する場合	桜花小学校の敷地を活用する場合
望ましい通学距離を超える地域	・花畑六丁目 27 の 1/2、33～35 ・花畑七丁目 9、10 の 1/2、11～19 ・花畑八丁目 全域	・花畑五丁目 1～5 ・保木間五丁目 27～39
最長通学距離（直線距離）	約 1, 8 5 0 m	約 1, 4 5 0 m
望ましい通学距離を超える児童数（令和12年度）	1 学年あたり 1 1 人程度	1 学年あたり 9 人程度

イ 花畑西小学校と花畑第一小学校を統合する場合

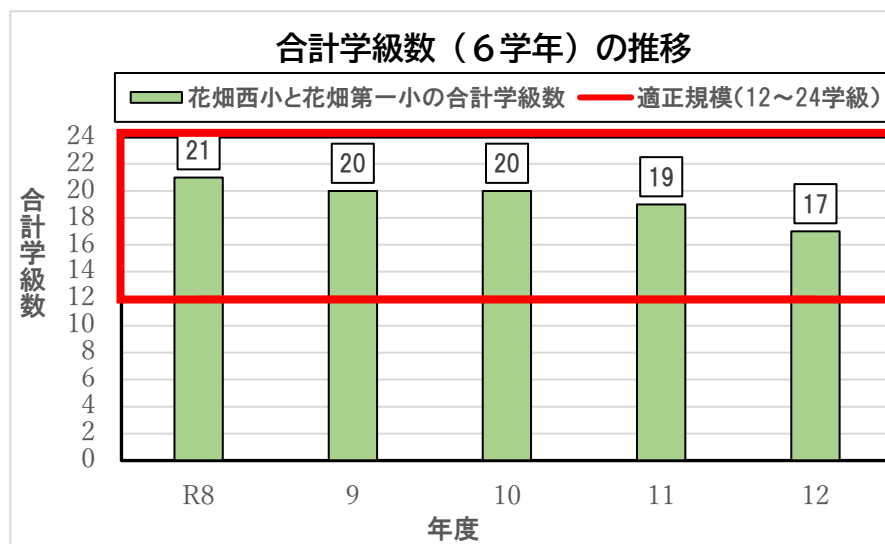
(ア) 適正規模の視点

花畑西小学校と花畑第一小学校の学区域内の1歳から5歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、1学年35人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は、17～21学級程度の適正規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校＋花畑第一小学校】統合後の年少人口と合計学級数の推移



※ 令和7年5月時点の学区域内居住人数を基に算出。

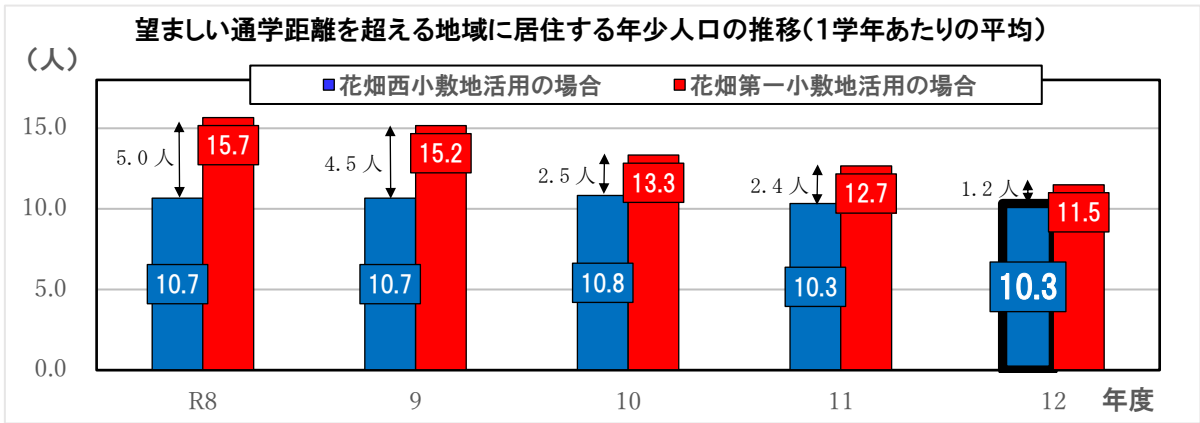
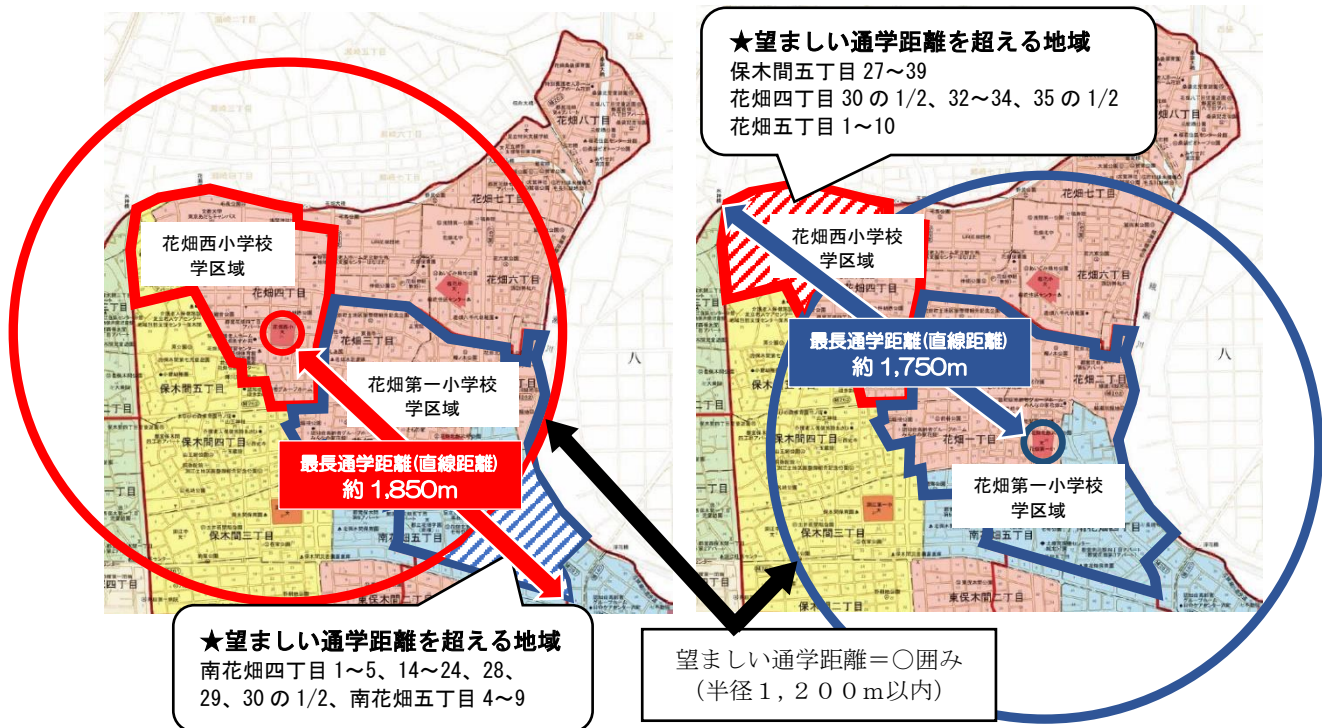


(イ) 適正配置の視点

花畑第一小学校の敷地を活用するほうが、最長通学距離（直線距離）は100m短い約1,750mになります。一方で、望ましい通学距離を超える地域に居住する年少人口（11歳以下）は、花畑西小学校の敷地を活用するほうが1学年あたり約1人少ない10人程度（令和12年度）となります。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合

②花畑第一小学校の敷地を活用する場合



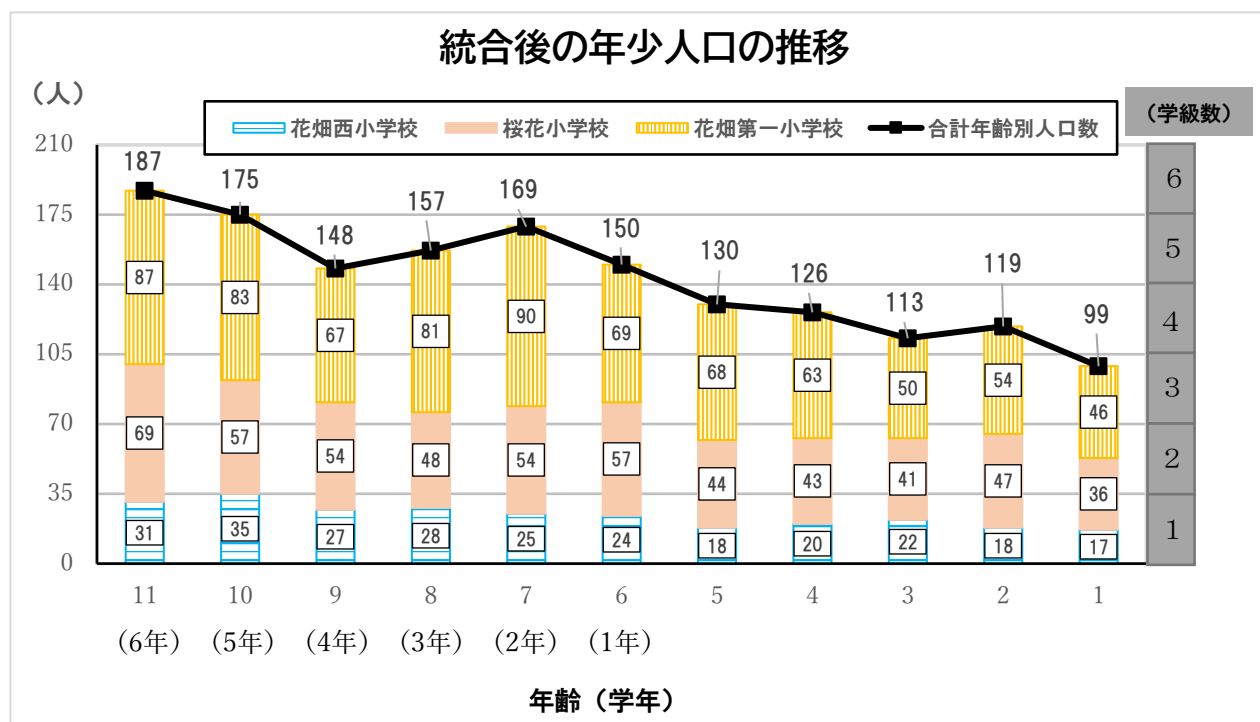
	花畑西小学校の敷地を 活用する場合	花畑第一小学校の敷地を 活用する場合
望ましい通学距離を 超える地域	・ 南花畑四丁目 1～5、14～24、 28、29、30 の 1/2 ・ 南花畑五丁目 4～9	・ 保木間五丁目 27～39 ・ 花畑四丁目 30 の 1/2、 32～34、35 の 1/2 ・ 花畑五丁目 1～10
最長通学距離 (直線距離)	約 1,850m	約 1,750m
望ましい通学距離を超 える児童数 (令和12年度)	1 学年あたり 10 人程度	1 学年あたり 11 人程度

ウ 全3校を統合する場合（花畑西小学校・桜花小学校・花畑第一小学校）

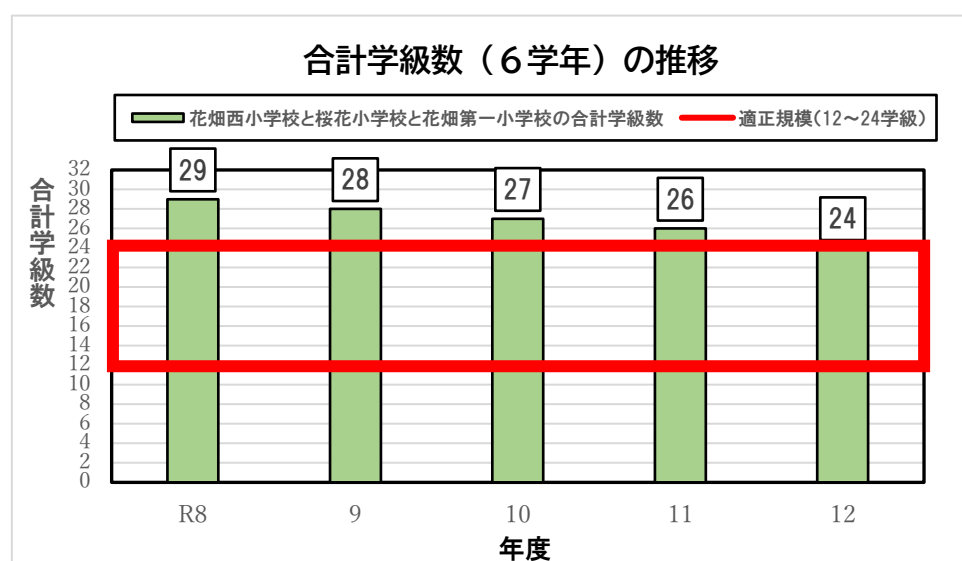
（ア）適正規模の視点

花畑西小学校と桜花小学校と花畑第一小学校の学区域内の1歳から5歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、1学年35人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は24～29学級程度となり、適正規模を超える、または上限に近い規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校+桜花小学校+花畑第一小学校】統合後の年少人口の推移



※ 令和7年5月時点の学区域内居住人数を基に算出。



6 学校施設の更新

花畑第一小学校の校舎は昭和38年建設で、築後60年を経過しています。

大規模改修済み及び改築予定の学校を除くと、区内小学校では花畑小学校と同様に古い校舎となるため、すみやかに施設更新を進める必要があります。

◆昭和30年代に建築された小学校◆

番号	学校名	建築年	大規模改修等の実施状況
1	興本小学校	昭和37年	令和8～10年度 新校舎設計（予定）
2	中川小学校	昭和37年	平成22年度 大規模改修済み
3	千寿常東小学校	昭和38年	令和7年度 施設更新に伴う設計等事業者選定済み
4	花畑小学校	昭和38年	
5	花畑第一小学校	昭和38年	
6	西新井第二小学校	昭和39年	
7	宮城小学校	昭和39年	令和7年度 施設更新に伴う設計等事業者選定済み

◇大規模改修とは◇

壁、床、天井を入れ替え、エレベーターを設置した改修。

第5章 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（小学校）

1 適正規模・適正配置の具体的な方法

（1）「花畑西小学校」と「桜花小学校」を統合します

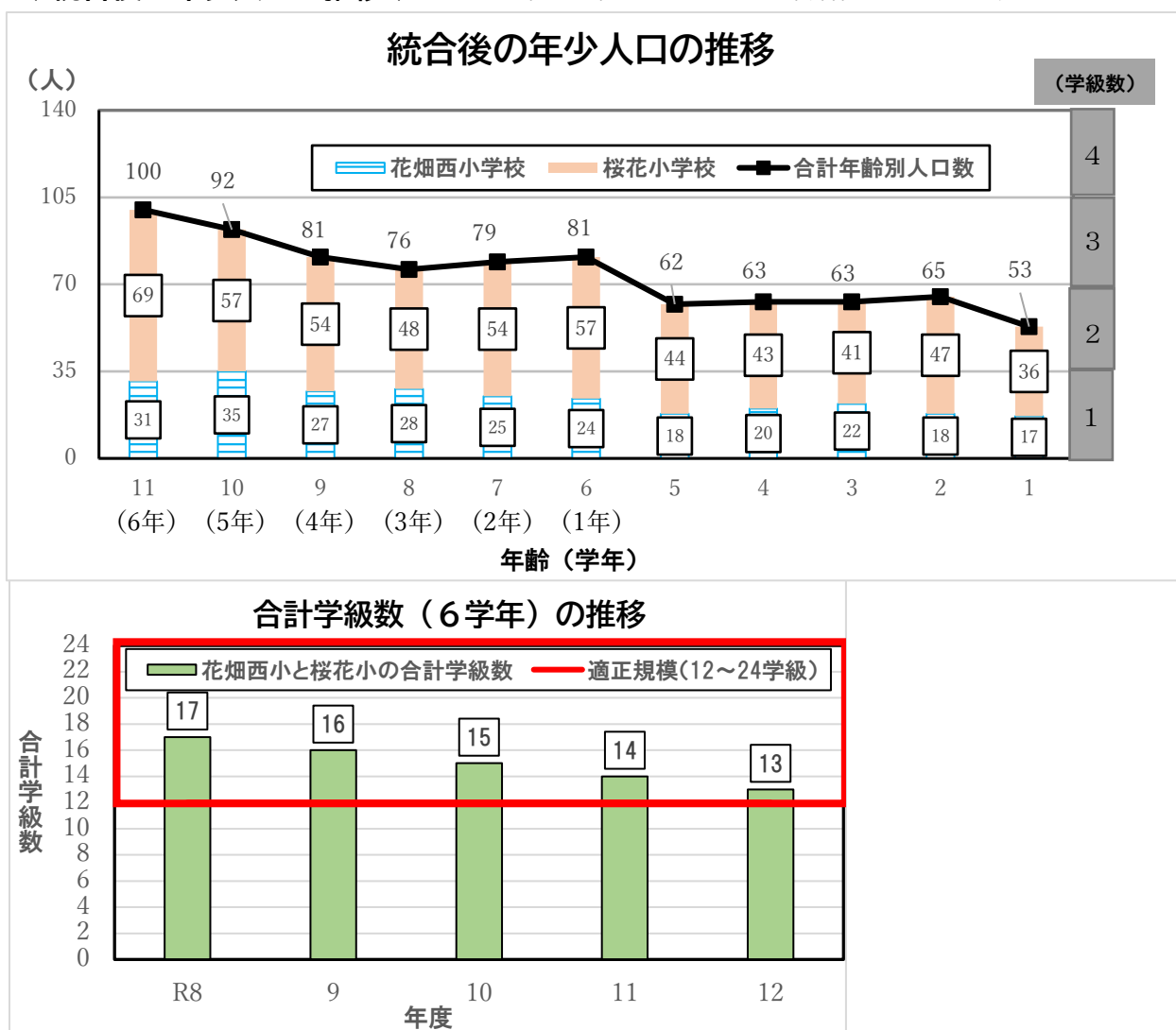
花畑西小学校と桜花小学校の学区域内の1歳から5歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、1学年35人学級で算定した場合、統合後の6学年の合計学級数は13～17学級程度の適正規模で推移することが予測されます。

（花畑第一小学校は単独で12～16学級程度の適正規模で推移する見込み）

花畑西小学校と桜花小学校を統合することにより、安定した学校規模を維持するとともに、学校生活をより充実させ、教育環境のさらなる向上を目指します。

◇統合後の年少人口の推移◇

※ 令和7年5月時点の学区域内居住人数をもとに算出



（２）統合後の学校の配置を検討します

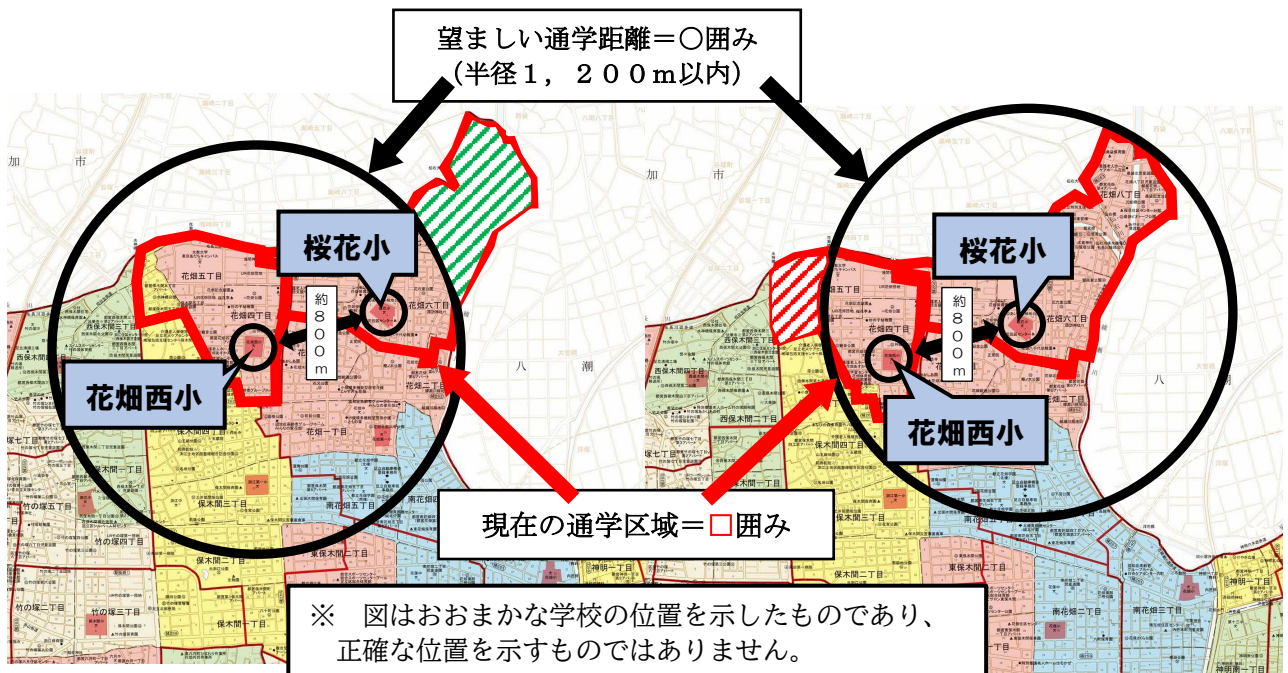
ア 適正配置の視点

- （ア）望ましい通学時間は、おおむね30分以内
- （イ）望ましい通学距離は、直線距離でおおむね1,200m以内
- （ウ）歩行速度は分速40m
- （エ）各校の敷地を活用した場合の通学距離の範囲は、下図のとおりです。

- ① 花畑西小学校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、桜花小学校の通学区域を超える地域が生じます。
- ② 桜花小学校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、花畑西小学校の通学区域を超える地域が生じます。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合

②桜花小学校の敷地を活用する場合



- （オ）桜花小学校の敷地のほうが、望ましい通学距離を超える児童が少なく、最長通学距離（直線距離）も短い

	花畑西小学校の敷地を活用する場合	桜花小学校の敷地を活用する場合
望ましい通学距離を超える地域	・花畑六丁目27の1/2、33～35 ・花畑七丁目9、10の1/2、11～19 ・花畑八丁目全域	・花畑五丁目1～5 ・保木間五丁目27～39
望ましい通学距離を超える児童数（令和12年度）	1学年あたり11人程度	1学年あたり9人程度
最長通学距離（直線距離）	約1,850m	約1,450m

イ 敷地面積の視点

（ア）桜花小学校のほうが、花畑西小学校より約1,200㎡広い

※ 約1,200㎡は、学校プール4個分（1個あたり約300㎡）に相当する

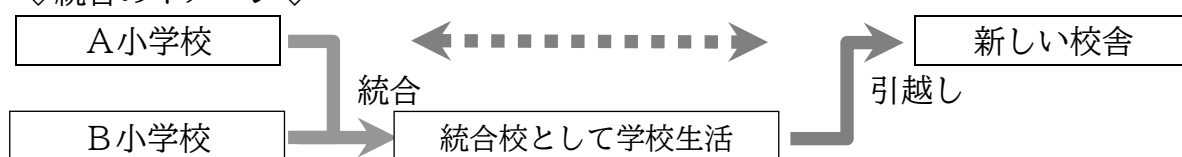
学校名	建築年	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
花畑西小学校	昭和45年	10,537	6,412
桜花小学校	昭和47年	11,826	5,936

ウ 施設更新の視点

（ア）花畑西小学校と桜花小学校はどちらも築50年以上経過している

（3）改築期間中の仮校舎を検討します

◇統合のイメージ◇



※ 「新しい校舎」へ引越し後、B小学校の校舎や校庭、体育館等については、近隣の小・中学校改築時の仮校舎等として活用することを検討します。

校舎の解体・改築工事における児童や教員等に対する安全性の確保や、騒音・振動による学校運営への影響を総合的に判断し、A小学校の改築期間中は、B小学校を統合後の仮校舎として活用します。統合の際にB小学校の普通教室で不足が生じる場合は、必要に応じて教室の転用や増設などを行います。

■「花畑西小学校」の統合相手校に「花畑第一小学校」を選定しなかった理由

①「花畑第一小学校」を統合相手校とする場合、最長通学距離（直線距離）が長くなり、望ましい通学距離を越える児童数も多くなる（18、20ページ参照）

統合相手校	花畑第一小学校		桜花小学校	
統合新校の配置	花畑第一小学校	花畑西小学校	桜花小学校	花畑西小学校
最長通学距離 （直線距離）	約1,750m	約1,850m	約1,450m	約1,850m
望ましい通学距離 を超える児童数 （令和12年度）	1学年あたり 11人程度	1学年あたり 10人程度	1学年あたり 9人程度	1学年あたり 11人程度

②「桜花小学校」単独では、学区域内の年少人口で12学級程度（268～339人）の適正規模の下限を推移し、徐々に小規模傾向に向かう見込みのため、適正規模の維持に向けた取組みが必要になる（12ページ参照）

※ 「花畑第一小学校」は単独で12～16学級程度（350～477人）の適正規模で推移する見込み

第6章 学校統合に向けた今後の進め方

1 統合地域協議会の設置

統合について統合対象校の開かれた学校づくり協議会においてご理解をいただいた後、「統合地域協議会」を設置して統合実現に向けた準備を進めていきます。

(1) 委員構成

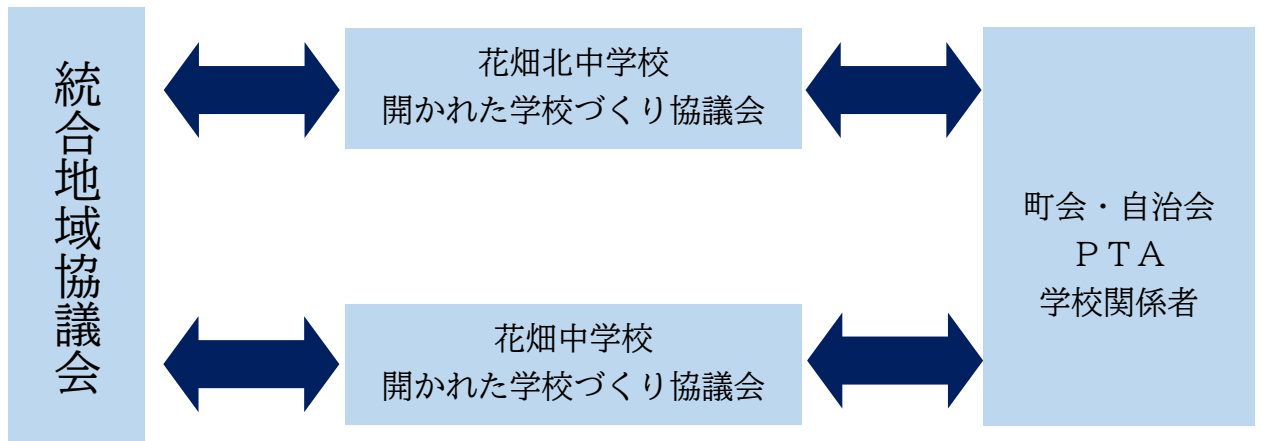
- ア 各校の「開かれた学校づくり協議会」の委員中心（各校の状況により、地域関係者や保護者も可）
- イ 委員総数は20名程度（各校から10名程度）

(2) 主な議題

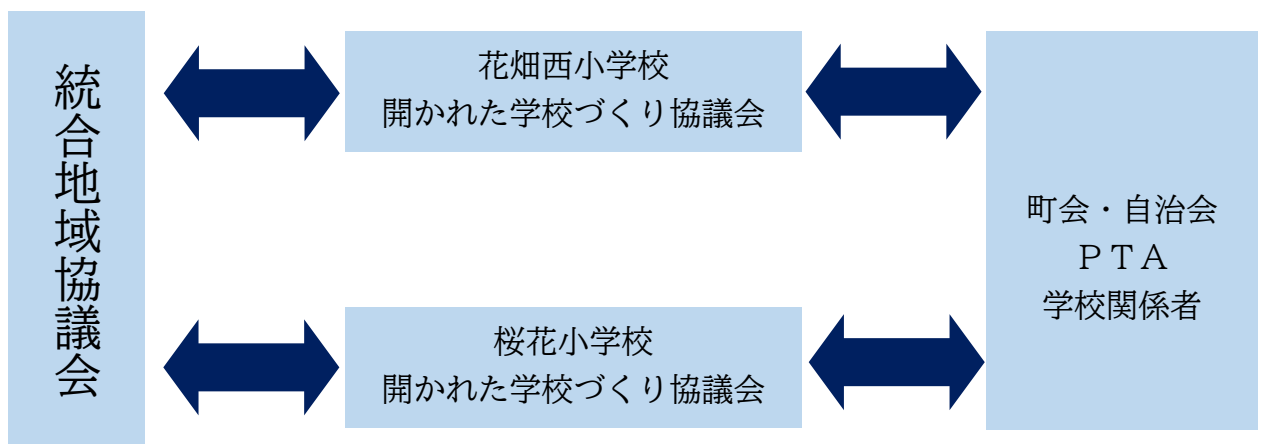
- ア 統合地域協議会活動の目的
- イ 統合地域協議会活動のスケジュール
- ウ 統合校の校名や新しい校章・新しい校歌
- エ 各校の歴史や文化の継承
- オ 統合に向けた子どもたちの交流事業の検討など

(3) 統合地域協議会の構成イメージ

ア 中学校



イ 小学校



2 統合及び校舎建設等のスケジュール（予定）

（１）中学校

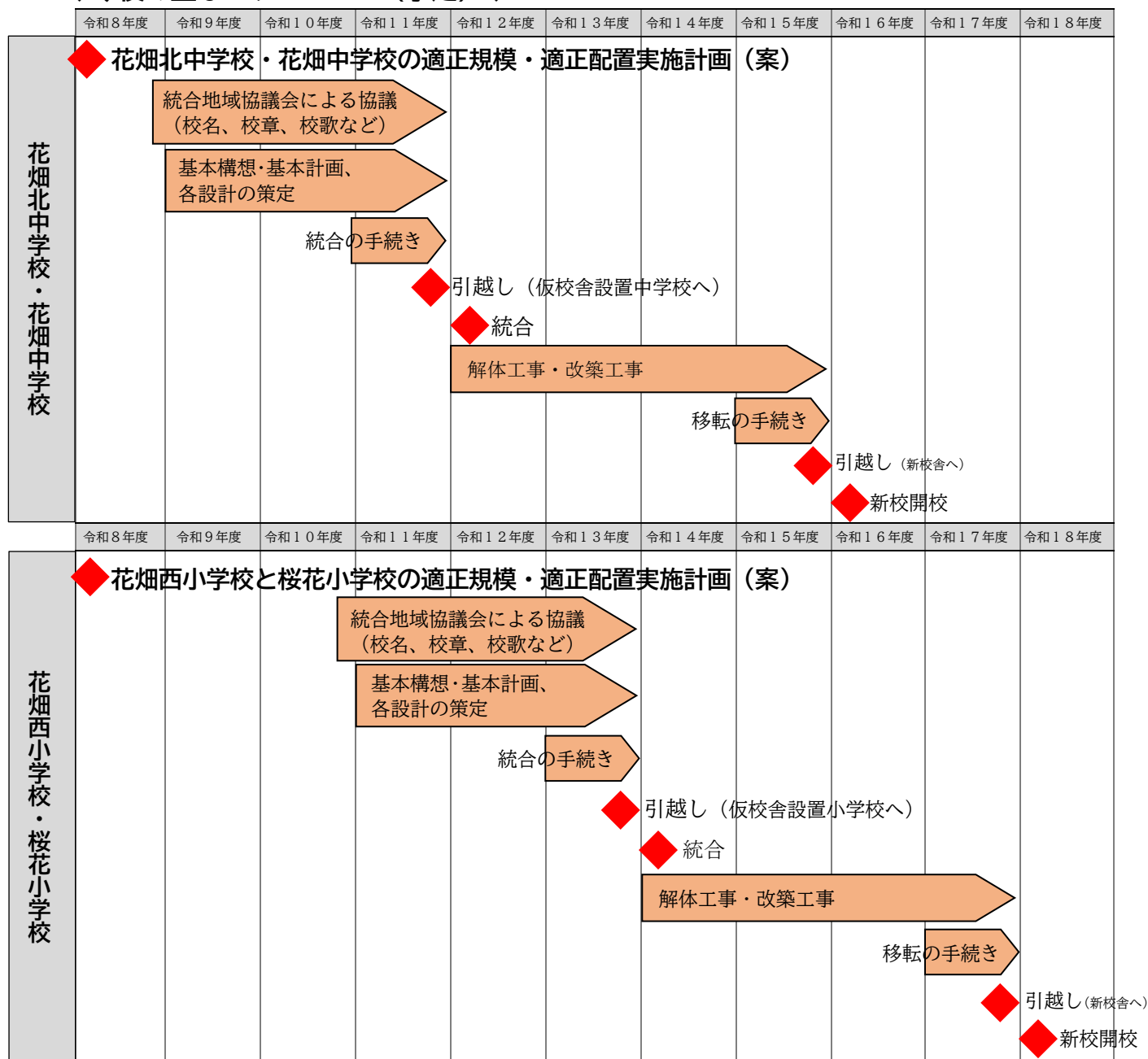
令和１２年４月に統合し、令和１６年４月に新校舎での学校生活の開始を目指します。

（２）小学校

令和１４年４月に統合し、令和１８年４月に新校舎での学校生活の開始を目指します。

なお、学校施設の機能などについては、学校関係者や地域の皆様から丁寧にご意見を伺いながら、解体工事や新校建設などに伴う様々な課題を着実に解決していきます。

◇今後の主なスケジュール（予定）◇



3 請願を踏まえた検討

平成29年6月に区議会で採択された「花畑地区学校統合に伴い、魅力ある公教育、教育環境を実現し文教地区・花畑を目指すことを求める請願」を踏まえ、これまで区では、当該地区の年少人口の推移を注視しながら、他自治体の取り組み等も調査・研究してきました。

今後は、これまでの検討内容を踏まえ、地域や学校関係者のご意見も伺いながら、請願の願意を満たす取り組みの実現を目指していきます。

(1) 請願の要旨

花畑地区の学校統合と施設更新に伴い、義務教育学校、官民一体型学校等により小・中一貫を含めて魅力ある公教育、充実した教育環境を整備して欲しい。併せて文教大学学園との連携による魅力ある学校づくりにより、花畑地区を文教地区として発展させることを求める。

(2) 小中一貫教育の方向性（平成29年6月の請願説明資料より抜粋）

- ア 義務教育学校への移行は、国や都による正規教員の加配等のメリットが未だ見えていない現段階で結論を出すのは時期尚早である
- イ 小中一貫校の設置については、取り組みの効果が高い「施設一体型」校舎が望ましく、現時点では、「施設分離型」の設置を選択すべきではない
- ウ 新たな「施設一体型」小中一貫校の設置は、施設を一体化できることや校舎が施設更新の時期であること等を前提に、小中連携や興本扇学園・新田学園の成果の比較検証等を勘案して総合的に判断していく必要がある

(3) 「施設一体型」小中一貫校以外の事例（同一敷地内で小中併設）

自治体名	北 区	世田谷区
学校名	王子小学校・王子桜中学校	芦花 ^{ろか} 小学校・芦花 ^{ろか} 中学校（保育園併設）
開 設	平成21年	平成24年
教育目標及びカリキュラム	小・中それぞれで設定	小・中それぞれで設定
学校規模 (令和7年5月時点)	小学校882人（28学級） 中学校439人（13学級）	小学校1,006人（31学級） 中学校 327人（ 9学級）
学校施設	体育館2箇所 プール1箇所（小・中共用） 給食調理室1箇所（小・中共用）	体育館2箇所 プール2箇所 給食室1箇所（小・中共用）
校地面積	小学校 11,367.65 m ² 中学校 11,142.55 m ²	29,239 m ² （全体面積）